



# 東京歯科大学広報



末永い両校の交流を祈念しての記念撮影：平成22年8月20日（金）、延世大学校歯科大学・ロビー

## 延世大学校歯科大学との学生交流 本学学生代表12名が訪韓

延世大学校歯科大学との学生交流は、今年23回目を迎え、佐藤 亨学生部長、中村光博学生副部長、前田健一郎学生課員引率のもとに、平成22年8月16日（月）から8月20日（金）までの4泊5日の日程で代表学生12名が訪韓した。

学生代表のメンバーは、学生会歯科学学生交流会局長の齋藤 馨さん(4年)をはじめ、大島俊彦君(4年)、崔 大煥君(4年)、榎本奈三さん(3年)、高木紗耶華さん

(3年)、濱田真衣さん(3年)、星野立樹君(3年)、山田朗寛君(3年)、釘宮嘉浩君(2年)、皇 甫璘さん(2年)、河角久美子さん(1年)、朴 世津君(1年)で構成された。

8月16日(月)午後12時30分ソウル・仁川空港に到着した一行は、延世大学校歯科大学のKim Hee-Jin 学生部長をはじめ教職員・学生のお出迎えを受け、延世大学に向かう途中のお店で美味しい冷麺をご馳走になり、韓国へ来たことを実感した。

### 2010年7・8・9月 本号の主な内容

## 244号

- ・延世大学校歯科大学との学生交流 ..... 1  
本学学生代表12名が訪韓
- ・第42回歯学体夏期部門開催 ..... 2
- ・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(hrc 8)採択 ..... 23
- ・がんプロフェッショナル養成プラン『大学院生プロジェクト』に ..... 24  
本学大学院がんプロコース5名が採択
- ・平成22年度科学研究費補助金決定 ..... 31

延世大学へ到着すると同時に歓迎式が行われ、Kwon Ho-Keun 延世大学校歯科大学学長をはじめ大学幹部、教職員および学生の熱烈な歓迎を受け、その後、学内見学を行った。

17日は、Kim Seong Tack 教授による興味深い特別講演が英語で行われた。休憩を挟んでの学生交流会議では、「日韓で人気のある男女のタイプ」「日韓の歯科医療」の2題テーマを掲げてプレゼンテーション、質疑応答が行われた。全て英語でお



浴衣を着てディスカッションする本学学生：平成22年8月17日(火)、韓国・延世大学校

こなわれた活発な討議では、相手に少しでも分かりやすく説明しようと身振り、手振りを交えながらの懸命な姿が印象的であった。

18、19日の2日間は内麟川でラフティングなどを楽しみ、夜はバーベキューで盛り上がり友情を深めた。瞬く間に時間は過ぎ、帰国する20日の仁川空港では、別れを惜しむ学生の姿が目に映った。5日間に亘る学生交流を終え、本学一行は午後4時40分無事成田空港に到着した。



両校の学生同士が力を合わせての激流下り：平成22年8月19日(木)、韓国・内麟川上流

## 第42回歯学体夏期部門開催

平成22年8月1日～8月11日

### ■総合成績は第3位入賞

第42回歯学体は、徳島大学歯学部が事務主管となって8月1日(日)から8月11日(水)まで関西地方を中心に熱戦が繰り広げられた。今回の歯学体は、近年希に見る猛暑と熱帯夜が連日連夜続いており、各選手は体調管理が重要なポイントとなった。



総合第3位のカップを受け取る歯学体評議委員の長嶺優樹君(4年)：平成22年8月11日(水)、徳島県・クレメントホテル

本学からは、19部門387名の部員が優勝を目指して各部門に参加した。昨年に引き続きバドミントン部が連覇を成し遂げ、陸上競技部と軟式庭球部も優勝を果たした。水泳部が準優勝、剣道部とスキー部が第3位となり、総合第3位入賞の大きな原動力となった。



総合第3位入賞を中心に表彰部門・表彰選手の掲示(学生課・教務課前)

## ■バドミントン部門 男女総合優勝二連覇

### バドミントン部主将 永澤祐麻 (4年)

昨年度のデンタルでは、男女総合優勝というすばらしい結果をおさめました。今年度は、二連覇を狙える位置にあるとわかり、男女総合優勝二連覇という大きな目標を掲げ、日々の練習に励んできました。しかし、主力部員の病気による欠場など様々な問題もあり、部活としてまとまった状態での練習はなかなかできず、最高の状態でデンタルを迎えることはできませんでした。しかし、デンタルの最中に部員全員の気持ちがまとまり、試合、応援ともに死力を尽くして頑張りました。その結果、男女総合優勝二連覇というかつてない偉業を達成でき、とてもうれしく思うと同時に、本当に感動しています。これも、試合に出なかった者、出られなかった者、OBの先生方を含め部員全員の結束力あってのものだと思います。OBの先生、先輩方におかれましては数々の御指導、御支援を賜りましたことを心より感謝申し上げます。



バドミントン部門 弛まめ努力の結晶 第41、42回大会連覇：平成22年8月6日(金)、大阪府・大阪市中央体育館

## ■陸上競技部門 総合優勝

### 陸上競技部主将 大矢恭太郎 (4年)

昨年の歯学体では目標としていた連覇を逃し、悔しい思いをしました。私達はその悔しさをばねに、今年は特に総合優勝にこだわって日々練習に励み、大会ではそれぞれが力を十分に発揮することができ、王座奪回を果たすことができました。陸上は個人競技ですが、今年の私達は、チームの勝利のために1つでも順位を上げようという一人一人の気持ちが強かったと思います。私は、自分が主将に任されてから歯学体までの努力を総合優勝という形で残すことができ、感無量です。今年の部活動を共に支えてくれた部員や部長の中村光博

先生、応援して下さったOBの先生方に変な感謝しています。ありがとうございました。



陸上競技部門 大きなフォームで快走：平成22年8月8日(日)、岩手県・森山総合公園

## 陸上競技部 多田恵子(5年) 800M・3000M 優勝

走ると言うことは、私にとって自分を見失わずにしっかり日々を過ごす為にも必要なものです。そして私の走りに温かい目をもって期待をしてくれている人がいる、それが何よりも誇りとなっています。

来年は第6学年となり更に厳しい1年ですが、学生生活の集大成としてこれまで支えてくれた方々に感謝の意を表したい。そのひとつの形として、私自身の最高の走りをしてと思っています。それが出来れば自然と今年以上の最高の結果がついてきます。実現できるよう、勉強に、陸上に、より一層励んでいきたいです。

## ■軟式庭球部門 総合優勝

### 軟式庭球部主将 岡田好広 (5年)

今年の全日本歯科学学生総合体育大会において、我々軟式庭球部は総合優勝を果たしました。昨年からの練習計画を立て、弱点を補強してきた成果が出たことは喜ばしいことです。



ソフトテニス部門 絶好球を狙い打ち：平成22年8月4日(水)、徳島県・大神子テニスセンター

他大学の強豪チームと比べて花形プレイヤーはいませんが、一人一人が力を合わせ綿密な作戦と泥臭いプレーでカバーして勝ち得た勝利であり、個人で勝つことより何倍もうれしいものでした。

このような結果を残せたことは、大学の支援はもちろんであります。顧問の先生、OBの先生方のお陰であり部員一同大変感謝しております。

#### 軟式庭球部 池田朋子 (5年)・大山陽子 (5年)

私達は第37回大会から優勝を続けており、今年も登院中で不安もありましたが、優勝することができました。

入学当時から息がピッタリと合い、抜群のコンビネーションでした。来年は夢の6連覇を目指して頑張ります。

### ■水泳部門 総合準優勝

#### 水泳部主将 鬼谷 薫 (4年)

私は1年生のとき、水泳は未経験でしたが泳ぐことが好きだったので、歯学体で18連覇中という水泳部に入部しました。ところが新入部員は初心者で自分一人で、部員数も少なかったため、主将以下部員全員の努力にも関わらず、惜しくも連覇は途切れてしまいました。その後、学年が上がるごとに、当時の先輩達の悔しさや、自分自身が連覇に貢献できなかったのがゆさを身にしみて痛感するようになりました。大きく口には出しませんが、この借りは必ず返してやろうと、皆で黙々と練習を繰り返していました。

主将になった4年生の春、部員の少ない水泳部に9人の新入部員が入りました。学年で部員一人の私がチームを引っ張っていけるのかという不安もありましたが、悔しい思いをした先輩達のためにも今年こそ優勝を取り戻したいと思いました。



水泳部門 名門復活の準優勝、来年こそは優勝：平成22年8月7日(土)、千葉県・国際総合水泳場

そして、部員全員が優勝という同じ目標に向かって日々練習を重ね、大会でも全員が最後まで絶対に諦めないという気持ちを持って泳ぎきりました。

結果は、優勝には一歩及ばず準優勝となり、悔しさも残りましたが、自分達としては、今年できる精一杯の努力をした結果であり、来年以降につながるかと信じています。

最後になりましたが、今年このような結果を残せたのは、いつも部活を支えて下さったOBの先生方や先輩のおかげであり、また日々の練習についてきてくれた後輩の力でもあると、心より感謝しています。

### ■各部門で学生が大活躍

#### バドミントン部

女子シングルス優勝 鈴木春菜(衛校2年)

#### 陸上競技部

女子100M・800M・3000M優勝 多田恵子(5年)

男子4×100Mリレー優勝

浅井雅敏(5年) 木村翔馬(4年)

河合章太(4年) 松崎和磨(2年)

110Mハードル優勝 浅井雅敏(5年)

円盤投げ優勝 谷口健太郎(2年)

三段跳び優勝 松崎和磨(2年)

走り幅跳び優勝 松崎和磨(2年)

#### 軟式庭球部

女子個人戦優勝

池田朋子(5年) 大山陽子(5年) ペア

#### 水泳部

新人戦女子50Mバタフライ優勝

高橋 彩(1年)

新人戦男子50M背泳優勝

加藤禎彬(1年)

女子100M平泳ぎ優勝 伊尾歌織(5年)

男子200Mリレー優勝

長谷川大悟(6年) 白取佑智(2年)

加藤禎彬(1年) 西村達郎(1年)

#### 剣道部

男子個人戦式段以上優勝 和田 朗(3年)

#### スキー部

男子回転・大回転・スーパー大回転

男子個人総合優勝 木村翔馬(4年)

## サッカー部

得点王 荒川雅弘(3年)

## ヨット部

## 個人トップ賞

崔 大煥(4年) 前田千晶(4年) ペア

## 弓道部

男子個人最優秀射技賞 五月女寛明(4年)

## 少林寺拳法部

女子運用法取闘賞 大石綾香(2年)

## 卓球部

男子新人戦優勝 金谷佳明(2年)

新人賞 藤山祐平(1年)

## ■第42回歯学体総合成績(入賞以上)

優 勝 愛知学院大学歯学部

準優勝 日本大学歯学部

3 位 東京歯科大学

4 位 大阪歯科大学

5 位 日本大学松戸歯学部

6 位 九州歯科大学

## ■第42回歯学体入賞部門 順位

バドミントン部 優 勝

陸上競技部 優 勝

軟式庭球部(ソフトテニス) 優 勝

水泳部 準優勝

剣道部 3 位

スキー部 3 位

ボウリング部 4 位

硬式庭球部 5 位

サッカー部 5 位

バレーボール部 5 位

ヨット部 5 位

弓道部 6 位

## ■来年は、東京を舞台に

平成23年度の第43回大会は、日本歯科大学生命歯学部の事務主管により、東京を中心に開催される予定である。

## 金 智英 歯学体副評議員(3年)

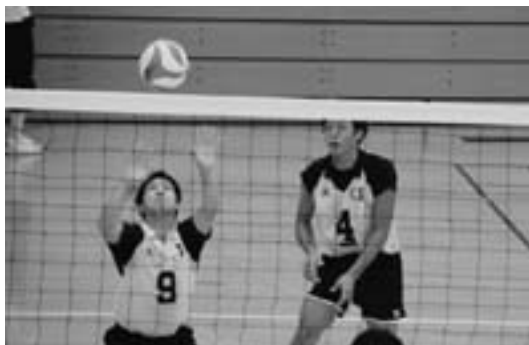
私は今年歯学体副評議員に指名されて、4度、徳島の地を訪れました。自分が学校の代表でいいのかという戸惑いはありましたが、少しでもデン

タルがより良いものになるようにと会議に臨みました。会議は各大学の代表者が集い、各部門における予算が適当であるかを議論することが主な仕事ですが、交流会では他大学の学生と様々な交流をする、大変貴重な機会をいただいたことに感謝しております。

私は男子バレーボール部に所属しており、男子チームは準優勝、総合5位でした。4年生大島俊彦キャプテンの下、チームはとても結束力が強く、お互いに遠慮なく助言しあえるチームだからこそ、このような結果が残せたのだと思います。

予選最終日にエースの5年生久保宗平先輩が指を痛めてしまい、決勝リーグは不安を抱えたままの戦いとなりました。今まで久保先輩に頼りきりだったチームでしたが、準々決勝、準決勝と久保先輩抜きで勝ち抜くことができ、少しでも成長した姿を見せることができうれしかったです。

ここまでこられたのは、部員を思いやり、自由に個性を伸ばしてくれた坂 英樹先生、また、遠路徳島まで応援に来ていただいた多くのご父兄やOBの皆様に、部員一同感謝しております。



バレー部で活躍する歯学体副評議員 金 君(左) :平成22年8月5日(木)、徳島県・北島北公園総合体育館

■歯学体スナップ



剣道部門 上段の構えで相手を威圧：平成22年8月1日(日)、徳島県・徳島市立体育館



ボウリング部門 気合いをボールに乗せて：平成22年8月3日(火)、大阪府・イーグルボール



サッカー部門 PK戦・勝利を呼び込むスーパーセーブ：平成22年8月2日(月)、徳島県・徳島市民吉野川運動広場南岸



ヨット部門 白い帆を広げ海面を滑る：平成22年8月1日(日)、愛知県・海陽ヨットハーバー



スキー部門 雪煙をあげて白銀を滑走：平成22年3月21日(日)、長野県・車山高原スキー場



硬式庭球部門 エア・ケイ並みの強力なフォアハンド：平成22年8月2日(月)、千葉県・白子町テニスコート



バレーボール部門 選手の視線はボールへ集中：平成22年8月5日(木)、徳島県・北島北公園総合体育館



弓道部門 精神統一 28m先の的を射抜く：平成22年8月5日(木)、岡山県・桃太郎アリーナ



少林寺拳法部門 静と動が連続する迫真の演武：平成22年8月1日(日)、千葉県・日本大学歯科体育館



硬式野球部門 気合いを入れていざ出陣：平成22年8月3日(火)、大阪府・寝屋川公園野球場



卓球部門 一進一退の攻防 声援を背に：平成22年8月3日(火)、広島県・広島市中区スポーツセンター



ゴルフ部門 大きなスイングでナイスショット：平成22年8月2日(月)、徳島県・グランディ鳴門



柔道部門 目を離さずにしっかりと組む：平成22年8月7日(土)、大阪府・大阪市立修道館



バスケット部門 戦いを終えた体育館を背に記念撮影：平成22年8月1日(日) 徳島県・鳴門アミノバリューホール



フットサル部 来年こそは正式競技へ：平成22年8月11日(水)、神奈川県・横浜球's倶楽部

**■教授就任のご挨拶****物理学研究室**

望 月 隆 二

このたび、教授会のご推挙によりまして平成22年9月1日付で物理学研究室教授に就任致しました。改めてその責務の重大さに身の引き締まる思いでございます。

現在、私立歯科大学・歯学部を取り巻く社会情勢は極めて厳しいといわざるを得ません。平成22年度入試では過半数の私立歯科大学・歯学部が定員割れの事態となり、本学でも受験生の減少傾向が続いています。昨年度から導入した基礎学力テストの結果からも新入生間に大きな学力格差があることが伺え、また、ある程度の知識を持った学生でも大学入試対策に偏ったマニュアル暗記型の学習に頼り、伸び悩む場合も少なくありません。物理学研究室ではこれまでも各学生の学力・特性に応じた教育をするために、コース別講義や

自然科学演習の導入、あるいは毎回の授業で質問を書かせる質問紙法の採用等を行ってまいりましたが、今後さらに学生個々のニーズに応じた教育を展開していくため、補習やオフィスアワー等の体制を整えるとともに、演習の結果や質問内容を点検し学生に声かけを行うことにより、学生がこれらを利用して積極的に疑問点を解消できるようにしていく所存でございます。また、医療技術の進歩や知識の増加、一方ではいわゆる「ゆとり世代」に対応するため、学生の学力等に対する現状把握のための調査、研究、さらにその結果を基にしたカリキュラム研究を行ってまいります。

物理学の世界に視線を移しますと、私の研究分野である素粒子論・宇宙論では数年前からいくつかの国際的な実験や観測が歴史的ともいべき結果を出しつつあります。このような現在進行形の科学の持つ魅力を授業内容に取り込むことにより、一般教養としての現代物理学の知識を伝達すると共に、学生の学習意欲を向上させる一助にできればと考えています。

皆様にはこれまでも増してのご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

**解剖学講座**

阿 部 伸 一

この度、教授会のご推挙により、平成22年9月1日をもちまして解剖学講座教授を拝命いたしました。重責に身の引き締まる思いです。これまで以上に学内の教職員の方々のご指導、ご協力を仰ぎ、理想的な教育の模索および歯科臨床へ還元できる基礎研究に微力ながら勇往邁進してゆく所存です。どうぞよろしくご厚意申し上げます。

私は平成元年に東京歯科大学を卒業後、平成5年に大学院を終了し、解剖学講座の助手として採用されました。その後も井出吉信主任教授のご指

導の下に教育、研究に従事してまいりました。この間、平成6年にはドイツ、ベルリン自由大学に約1年間留学する機会をいただき、医学部解剖学主任教授のMerker教授から様々なご指導を賜りました。さらに帰国後、千葉大学医学部におきまして嶋田 裕教授のご指導の下、非常勤講師をさせていただきながら、細胞生物学的研究に関し、切片作製から海外誌への論文作成方法の詳細に至るまで多くの事をご教授いただきました。学内におきましては、口腔科学研究センターが立ち上がった平成8年よりいくつかの研究グループの研究代表者(961D01、MEG)を勤めさせていただく中で、他講座の先生方との横のつながりも構築できてきたと実感しています。今年新たにhrc 8が採択されスタートし、hrc 8-2のグループリーダーを拝命いたしました。3年後にはまとまった研究成果が出るようにメンバー皆で鋭意努力しているところでございます。



120周年を迎え、東京歯科大学は教育に関しても新たな方向性を探るべく、教育カリキュラム改革へ向けたいくつかのワーキンググループが同時進行しております。教える側、学ぶ側、双方にとってわかりやすい、そして無理なく最終のゴールテープを

全員が揃って切れる東京歯科大学独自の理想的な教育を模索していきたいと考えています。

今後とも皆様の一層のご指導、ご鞭撻を受け賜われますようお願い申し上げます、就任の挨拶とさせていただきます。

## ■准教授就任のご挨拶



市川総合病院

外科学講座

原田 裕久

このたび、教授会よりご推薦を賜り、平成22年9月1日付けをもって市川総合病院外科学講座准教授を拝命いたしました。身に余る光栄と存じ、今後とも伝統ある本学の名を汚さぬよう、臨床、研究、教育に邁進してゆく所存です。

私は平成4年に慶應義塾大学医学部を卒業後、同外科学教室に入局、臨床研修を終えたのちに平成7年より同一般・消化器外科血管班に所属、当時の北島政樹教授のもとと血管外科医として臨床・研究に携わりました。

平成12年より3年間、米国ルイジアナ州立大学に留学させていただいた後、平成15年4月より命を受け、安藤暢敏教授のもと外科学講座助手として当院に赴任し、血管外科を主に担当して参りました。光陰矢のごとし、無我夢中の7年が経過いたしました。

血管外科疾患は多岐にわたり、もっともダイナミックな大動脈瘤手術から、拡大鏡を用いた微小血管吻合まで守備範囲は広範です。最近の血管外科のトピックとしては、カテーテルを応用した低侵襲血管内手術の急速な発展が挙げられ、私も当院赴任以来、この流れに着目し率先して血管内手術を手掛けてまいりました。とくに最先端のトピックである胸部・腹部の大動脈瘤に対する血管内手術(ステントグラフト手術)に関しては、千葉県内でもトップクラスの症例数と好成績を誇っております。その他にも重症下肢動脈閉塞に対するカテーテル手術とバイパスを組み合わせたハイブリッド手術、また各診療科における周術期静脈血栓塞栓症の予防対策や、糖尿病や透析医療に関連した重症動脈硬化性疾患の加療などに日々積極的に取り組んでおります。

さらに、主に下肢の難治性慢性創傷の加療を専門的、多角的に取り組むべく、平成19年からは創傷センターを設立し運営しております。

今後とも本学の発展のために臨床面のみならず、微力ながら学生、研修医の指導を始めとした教育活動の充実や基礎研究面においても全力を尽くしてゆく所存でございます。今後とも一層のご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



市川総合病院

麻酔科

芹田 良平

このたび、教授会の推挙を賜り、平成22年9月1日付で、東京歯科大学市川総合病院麻酔科准教授を拝命致しました。小坂橋俊哉教授、安藤暢敏病院長をはじめ、ご指導頂いた多くの方々にか

ら感謝致します。誠に微力ではございますが、本学および東京歯科大学市川総合病院の発展のために尽力して行きたいと思っております。これからも、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

私の専門とする集中治療は、麻酔科学会などと比較しても実働する専門医の数が著しく少ない分野であります。全国に800名ほどいる専門医の多くが、集中治療の現場から退いているのが現状でございます。それゆえ、認定施設も少なく、千葉県の病院数は300弱でございますが、日本集中治療医学会の認定を受けているICUは11施設(4%以下)で、まだまだ十分とは言い難い分野でござ

います。一方で、高齢化や医療の高度化に伴い、益々需要は増加している分野でございます。我々の施設も開設して5年になりますが、残念ながらマンパワー的に十分とは言い難いのが実状ではあります。今できることから手をつけて、いずれは集中治療医の育成の場として、口腔外科医や研修医の研修の場として、本院集中治療室が活かされればと考えております。始まったばかりではあり

ますが、歯科衛生を含む呼吸ケアチームなど、現実的には本学でなければ成しえない特色が芽生え始めています。歯学部がもつ全国で唯一の認定ICU施設として、口腔ケア等、その特色を生かし、当院で働く関係者や、本学の学生、卒業生が、その存在を誇りに思えるような唯一無二のICUを創造して行きたいと考えております。これからもご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

## 学内ニュース

### ■平成22年度緩和ケア研修会開催

東京歯科大学市川総合病院は平成20年2月に地域がん診療連携拠点病院の指定を受けている。がん診療連携拠点病院には、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会を毎年開催することが義務付けられていることから、昨年に続き2回目の研修会を平成22年6月20日(日)・27日(日)の両日に開催した。

がん診療連携拠点病院が行う緩和ケア研修会は、院内だけではなく地域の医療従事者も対象にすることから、今年度は院外の勤務医・開業医に



講義風景：平成22年6月20日(日)、市川総合病院2階講堂



グループ演習風景：平成22年6月20日(日)、市川総合病院2階講堂

対しても県や医師会・歯科医師会を通して広く募集を呼び掛けて実施された。

参加者は学外から9名、院内の医師・歯科医師14名、薬剤師4名、看護師5名、千葉・水道橋病院の歯科医師各2名の合計36名の参加者に対して、院外から7名のファシリテーターを迎えての研修会となった。

研修会の内容は、講義とロールプレイ、ワークショップで構成されており、講義では「緩和ケア概論」や「がん性疼痛」、「呼吸困難」、「消化器症状」、「精神症状(抑うつ、せん妄)」、「コミュニケーション」について解説され、「疼痛事例検討」や「オピオイドを処方するとき」、「コミュニケーション」、「地域連携」ではグループ討議やロールプレイが熱心に行われた。緩和医療は患者やその家族の辛さに焦点が当てられているが、がん診療を行っている医療者のケアも重要な要素である。

今回のような研修会は、日常のがん診療、特に疼痛緩和などで困っている医師に対しては極めて有効であることから、今後もがん診療連携拠点病院としての役割を担って行きたい。

### ■平成23年度臨床研修歯科医募集病院説明会開催

平成23年度臨床研修歯科医募集病院説明会が平成22年7月1日(木)午後6時より千葉校舎講堂にて、8月7日(土)午後1時より水道橋校舎血脇記念ホールにて各々開催された。

本説明会は三病院合同で年2回、本学学生と他大学学生を対象に説明会を実施している。7月1日は本学学生を対象に説明会を行い152名の参加があり、8月7日は他大学学生を対象に説明会を行い95名の参加があった。

説明会では千葉病院、水道橋病院、市川総合病

院の順に各病院の臨床研修プログラムの特色・概要の説明があり、その後、角田正健臨床研修委員長より9月5日(日)実施の研修歯科医募集選考についての説明が行われた。また、本説明会に本学同窓のつがやす歯科医院(梅安秀樹院長)および医療法人社団八龍会すずき歯科医院(鈴木 龍院長)が参加され、各々管理型臨床研修施設として作成した臨床研修プログラムの説明を行った。

説明会終了後、各施設の個別質問用のブースで、参加者からの質問に応じ、全スケジュールが無事終了した。

### ■第5回東京歯科大学公開講演会開催

平成22年7月3日(土)午後2時より、第5回東京歯科大学公開講演会が、千葉校舎講堂において昨年と同様に、地元千葉市美浜区真砂の関係団体(真砂地区コミュニティづくり懇談会、千葉市社会福祉協議会真砂地区部会、千葉市第31地区町内自治会連絡協議会)との共催で、開催された。

当日は、橋本貞充広報・公開講座部長の司会のもと、本学より柳澤孝彰副学長、そして共催団体を代表して成田英雄会長よりご挨拶をいただき、内山健志教授(前広報・公開講座部長)の進行で講演が行われた。

講演①『歯が抜けてしまったら—補綴(ほてつ) 歯科治療の正しい知識—』

クラウンブリッジ補綴学講座 佐藤 亨 教授

講演②『どんな材料で治療するの?—安心・安全のための歯科材料の知識—』

歯科理工学講座 小田 豊 教授

講演①では、自分の歯が抜けてしまった場合、そのままにしておいたら歯や歯列はどのような状態になってしまうのか、人工の歯はどのような種類があってどんな特徴があるのかなどを中心に、補綴歯科治療について、写真を豊富に使った、興味を持てるわかりやすい説明がなされた。

講演②では、インターネットやマスコミの多種多様な情報などから、歯科材料について不安や誤解を持つ方が多い昨今、安心・安全な歯科医療を受けるための知識として、歯科材料の種類や性質、役割について、データに基づき、詳しい説明があった。

210名の参加者を集めた本講演会では、参加者がみな熱心に受講しており、それぞれの講演終了

後には活発な質疑応答が行われ、参加者も大変満足した様子で、午後4時、盛会のうちに終了した。また、講演後によせられたアンケートでも「大変興味深い講演内容でとても勉強になった」、「このような公開講演会を継続して実施して欲しい」など、声が多数あり、大変好評な講演会となった。



講演する佐藤教授:平成22年7月3日(土)、千葉校舎講堂



講演する小田教授:平成22年7月3日(土)、千葉校舎講堂

### ■平成22年度水道橋病院・市川総合病院合同臨床研修歯科医OSCE開催

平成22年7月3日(土)午後2時より、水道橋病院において平成22年度の臨床研修歯科医を対象としたOSCE(客観的臨床能力試験)を開催した。今回の受験者は、水道橋病院11名、市川総合病院8名の他、都立多摩総合医療センターおよび東京都健康長寿医療センターからそれぞれ1名の計21名の臨床研修歯科医であった。

今回は院内に4か所のステーションを設置し、治療方針の説明を1課題と技能系課題を3課題の計4課題を実施した。受験者は臨床研修を開始して3か月経過したところで、これまでの研修の成果と知識を基に各課題に取り組んだ。受験者は課題ごとに評価者並びに模擬患者から評価を受け、

さらに各課題終了時には、評価者並びに模擬患者からフィードバックを受けた。受験者からは、「緊張したが技術の再確認ができ有意義なOSCEであった」「8月から始まる外部研修の前に気持ちが引き締まった」などの感想があった。後日、水道橋病院所属の臨床研修歯科医は、古澤成博水道橋病院研修管理委員会委員長より評価結果をもとに総評を受け、研修期間も中盤に入るが、歯科医師としての知識、態度、技術が身につくよう努力していくように、とのコメントをいただいた。

水道橋病院では、今後も様々な見直しを行いながら継続的にOSCEを開催し、臨床研修の更なる充実を図りたいと考えている。



課題に取り組む受験者：平成22年7月3日(土)、水道橋病院矯正歯科診療室



フィードバックを受ける受験者：平成22年7月3日(土)、水道橋病院総合歯科第1診療室

### ■津村麻記助手 優秀発表賞を受賞

平成22年7月10日(土)、11日(日)に行われた第5回トランスポーター研究会(東京医科大学、東京)において生理学講座の津村麻記助手が「象牙芽細胞におけるTRPV1/TRPV2チャンネル・CB1受容体・ $\text{Na}^+$ - $\text{Ca}^{2+}$ 交換体の機能連関」の演題で優秀発表賞を受賞した。

本賞は、研究内容、プレゼンテーションの内

容、研究成果が優れているものを選ぶアンケートを研究会参加者全員に行い、そのアンケートをもとに上位5名の発表者に贈られる賞である。トランスポーター研究会は歯学部からの発表は少なく、多くは薬学部や理学部からの発表であったが、ポスター会場では90分のポスターセッション中、ほぼ人が絶えることなく発表を聞きに来ており、他分野における研究者が多い中でも本研究の重要性と成果が高く評価された結果である。今回の研究は、う蝕や歯頸部楔状欠損による象牙細管解放などの歯髄への外的刺激により誘発される反応性第三象牙質形成への象牙芽細胞に発現するTRPVチャンネルの寄与に着目した研究である。加えて、象牙芽細胞の刺激受容機構を解明することで歯髄痛覚の伝達メカニズムの解明にもつながることになり、今後の活躍とともに大きな成果を期待したい。



受賞した津村助手

### ■入試ガイダンス・オープンキャンパス開催

東京歯科大学への入学を希望する受験生を対象として、平成23年度入試ガイダンスが7月11日(日)に午後1時から、7月31日(土)は午後2時から水道橋校舎13階で開催された。

また、千葉校舎ではオープンキャンパスが8月28日(土)午前10時から開催された。

水道橋校舎にて開催されたガイダンスでは、液晶プロジェクター・ビデオ等を用いて、東京歯科大学の歴史、教育理念や教育カリキュラム、国家試験合格状況、卒後進路状況、口腔科学研究センター、三病院の紹介、平成23年度入学試験の概要等について説明した。

また、今回は新たな試みとして11日(日)はTDC卒研セミナー2010『安全で確実なインプラ

ントをするために～知っておきたい知識と手技～』の見学、31日(土)は井出吉信副学長の模擬授業を行う等、受験生がより東京歯科大学の雰囲気を感じられるようなプログラムを導入した。

最後に希望者を対象に教務部・学生部の教職員との個別面談を実施した。11日(日)は94名、31日(土)は120名もの参加があり、個別面談希望者の行列ができるなど本学の情報を得ようという熱気に溢れ大盛況なガイダンスとなった。

千葉校舎にて開催されたオープンキャンパスは、昨年に引き続き夏休み期間に実施した。当日は99名もの参加者を集め、先に行われた水道橋校舎の入試ガイダンスと同様に大盛況であった。午前中は、松久保 隆教授を中心とした衛生学講座の協力により体験実習を実施した。TDCマーク入り歯ブラシ、キシリトールガム等が参加者にプレゼントされた。昼休みには、2グループに分かれて第1食堂にて学食体験と第1教室でのCBT体験が交互に行われた。午後からは阿部伸一准教授による「摂食・嚥下とは?基礎的メカニズム」、石田 暁講師による「摂食・嚥下リハビリテーションと歯科医療」と題した二つの模擬授業が行われた。大学で学ぶ歯科医学専門科目に関する内容を体験し、参加者からは、「教職員の方々の雰囲気や学校の設備の充実度などがよく伝わって非常によかったです。」「先端の歯科医学に対する研究の深さとゆきとどいた教育理念がよくわかった。」などの感想が寄せられた。その後、平成23年度入試について説明があり、大学の特色・カリキュラム等の紹介、学生生活等についての説明の後、学内見学を行い、希望者には個別相談を実施した。学内見学では、臨床基礎実習室、解剖標本室、図書館、千葉病院など、本学の貴重な標本、



大学からの説明を聞く参加者たち：平成22年7月31日(土)、水道橋校舎13階ルームA

充実した設備等を見て回った。

今後のガイダンスは、10月31日(日)に千葉校舎(東歯祭開催期間中)で、12月18日(土)に水道橋校舎で、実施する予定である。



体験実習に向けての説明を聞く参加者たち：平成22年8月28日(土)、千葉校舎実習講義室I

### ■千葉東高校からインターンシップで本学訪問

平成22年7月12日(月)午後2時30分から、千葉県立千葉東高等学校の1、2年生と進路指導部の教諭の全20名がインターンシップとして、大学見学を訪れた。この取組は、千葉東高校からの依頼で行っており、今年で4年目を迎える。

第2教室において、教務課から歯学部や本学についての説明を受けた後、千葉東高校卒業生で、本学4年生の角山明日香さんから、自身の大学生活について説明があり、学生目線の語り口で高校生にも分かりやすい内容であった。

続いて、口腔外科学講座の池田千早助教により、専門分野をはじめ「歯科」について、「歯科医師」という職業について、多岐にわたり説明がなされた。実際の治療や手術の様子を撮影した動画が流れると、皆食い入るように眺めていた。説明後の質問では、やはり反応通り、治療に関することや病気に



施設見学(口腔外科)風景：平成22年7月12日(月)、千葉病院6階

関連する事柄について数多くの質問があった。

次に、大学・病院施設の見学を行った。普段なかなか見ることができない手術室や解剖標本室をはじめ、図書館史料室、口腔科学研究センター、臨床基礎実習室等を見学した。特に、解剖標本室は好評で、解剖学講座 岩沼 治助教の説明に時間を忘れるくらい熱心に耳を傾けていた。最後に、第2教室に戻りインターンシップを通しての感想発表を行った。高校生たちに大変好評であり、今後も高大連携の取組として引き続き協力していきたい。

### ■第309回大学院セミナー開催

平成22年7月20日(火)午後6時より千葉校舎第2教室において、第309回大学院セミナーが開催された。今回は広島大学大学院医歯薬学総合研究科創生医科学専攻 探索医科学講座(口腔生物学)の加藤幸夫教授による「幹細胞の特徴を利用した歯科再生医療:転写制御、無血清培地、臨床応用そして事業化」と題した講演を伺った。その内容については、現在再生医療の大きなテーマとなっている胚性幹細胞(ES)、間葉系幹細胞(MSC)の分化、増殖の特徴についての比較がなされ、両細胞のうち、実用性の高いMSCを研究ターゲットに絞ることの意義、無血清培地の解析研究上の重要性、医療上の安全性の意義について、丁寧な説明がなされた。また、MSCの「均質化」と「構造化」の解析をすることにより、分化の方向性を調節できる培養方法が期待できることから、幹細胞としての形質発現を誘導する9種類の転写因子を同定してMSCの「本質」を追究する研究手法とその過程が紹介された。同種の研究テーマに取り組んでいる大学院生・研究職員から多くの質問が出され、加藤教授から丁寧な回答をいただくなど、



講演される加藤教授:平成22年7月20日(火)、千葉校舎第2教室

非常に活気溢れる有意義な1時間30分であった。

### ■東京歯科大学千葉病院医療連携講演会開催

平成22年7月22日(木)、午後4時より講堂において「東京歯科大学千葉病院医療連携講演会」が開催された。本会は、千葉県歯科医師会の協力のもと、地域の歯科診療所と千葉病院との連携強化を目的として毎年開催している。内容は午後4時からの「講演会」部門、午後6時30分からの「懇談会」部門の2部構成となっている。

講演会の演題は、毎年、千葉県歯科医師会および近隣歯科医師会からの代表委員と千葉病院の医療連携委員で構成されている医療連携協議会で決定している。本年は通常の講演の他、1つの演題について複数の演者が異なる視点から講演を行い、また、歯科と医科の連携についても講演を行った。

※今年度の演題および演者は以下の通り。

- 1.「神経麻痺(三叉神経知覚障害)症例とその対応」  
歯科麻酔学講座 講師 笠原正貴  
口腔外科学講座 助教 池田千早
- 2.「地域医療連携バス(糖尿病)について」  
歯周病学講座 講師 太田幹夫  
内科 准教授 大久保 剛
- 3.「いわゆるフレキシブルデンチャーについて」  
有床義歯補綴学講座 准教授 上田貴之
- 4.「インプラントに伴うトラブルと対応」  
口腔インプラント学講座 助教 古谷義隆  
口腔インプラント学講座 助教 本間慎也
- 5.「摂食・嚥下障害患者に対する歯科診療時の留意点」  
摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科 講師 杉山哲也

当日は130名以上の参加者を迎え、高野伸夫千葉病院長ならびに柴原孝彦医療連携委員長の挨拶から講演会が始まった。各演題20～30分前後の講演が行われ、演題発表後の質疑応答時には活発な意見が交換された。並行して、参加者からの症例相談に応じる症例相談コーナーを設け、各症例に対し医療連携協議会委員が対応した。

引き続き、厚生棟1階の食堂にて午後6時30分から懇談会が開始され、柴原医療連携委員長および早川琢郎千葉県歯科医師会理事の挨拶が行われ、藤本俊男千葉市歯科医師会長の発声のもと乾

杯を行った。懇談会の参加者は80名を超し、医療連携・症例相談等各話題について歓談が続いたが、午後8時に名残惜しい雰囲気を残しつつ散会し、医療連携講演会は無事終了した。



懇談会で挨拶をする柴原医療連携委員長：平成22年7月22日(木)、千葉校舎厚生棟

### ■井本研一大学院生 ポスター発表優秀賞を受賞

平成22年7月24日(土)～25日(日)に開催された第23回一般社団法人日本顎関節学会総会・学術大会(タワーホール船堀・東京)において、歯科放射線学講座 井本研一大学院生が、ポスター発表優秀賞を受賞した。本賞はポスター発表の中から特に優秀と認められる演題に贈られる賞で、学術委員会によって選考される。演題名は、“FLAIR法MR画像が診断に有効であった顎関節部嚢胞性病変の一例”である。本検討により、T2強調MR画像上で鑑別が困難なことがある顎関節部の嚢胞性病変と血管系病変との鑑別にFLAIR法が大きく寄与する可能性が示され、また顎関節部疾患を対象としたMR診断のさらなる可能性が示された。なお、本発表は、顎関節部におけるjoint effusionをFLAIR法MR画像上で分析することによりその本態を解明するという井本大学院



受賞した井本大学院生：平成22年7月24日(土)、タワーホール船堀

生の学位論文研究を基にした検討および結果である。今後の研究の発展が期待される。

### ■平成22年度歴代学長・役職者の墓参

例年、夏季期間に行なわれている歴代学長・役職者の墓参は、金子 譲学長、吉峯規雄大学事務部長をはじめとする大学職員により下記の日程で執り行われた。

7月21日(水)

関根 永滋 先生 栃木県藤岡町「慈福院」

7月26日(月)

血脇守之助 先生 松戸市「八柱霊園」

花澤 鼎 先生 松戸市「八柱霊園」

福島 秀策 先生 松戸市「八柱霊園」

鹿島 俊雄 先生 市川市「市川霊園」

井上 裕 先生 印旛郡「印旛霊園」

7月28日(水)

関根 弘 先生 横浜市「東戸塚霊園」

高木圭二郎 先生 新宿区「真英寺」

7月29日(木)

高山 紀齋 先生 杉並区「文殊院」

奥村 鶴吉 先生 東村山市「小平霊園」

杉山 不二 先生 府中市「多磨霊園」

松宮 誠一 先生 府中市「多磨霊園」



血脇先生の墓参を行う金子学長：平成22年7月26日(月)、松戸市「八柱霊園」

### ■平成22年度第3回水道橋病院教職員研修会開催

平成22年7月26日(月)午後5時30分より、水道橋校舎血脇記念ホールにおいて、平成22年度第3回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は、学術に関する研修会として、「禁煙指導について」と題して、水道橋病院総合歯科の齋藤 淳講師が講演した。齋藤講師は、平成22年4月に禁煙外来担当医となっており、仁科牧子准教授およ

び担当看護師とともに、禁煙指導に従事している。今回の講演は禁煙外来の流れおよび禁煙指導内容について、水道橋病院に勤務する全教職員に向けた解説を兼ねた内容であった。

講演は、まず日本における喫煙率や歯科医師の喫煙率を提示し、喫煙の現状についての解説がなされた。また、歯周病学の観点から歯周組織への喫煙の影響、タバコに含まれる有害物質について説明し、更にたばこに含まれるニコチンの身体的・心理的依存関係についても強調された。

続いて、今回のタイトルにもある「禁煙指導」と「禁煙支援」を含めた禁煙外来受診までの流れについての解説があった。現在、禁煙外来には健康保険が適用されているが、①直ちに禁煙しようと考えている患者、②ニコチン依存と診断された患者、といった条件を満たす必要があること、また禁煙治療薬としてニコチンパッチと内服薬の2種類あるものの、内服薬が主流になりつつあること、について説明が加えられた。その後、医療機関において禁煙指導の障害となる要因として、①自信がない、②患者が消極的、の2点を挙げ、より良い禁煙指導のために、①歯科医師・歯科衛生士の積極的な参加、②医療者間でのポジティブなサポートが必要、であることについて言及された。

今回の講演内容は、医療系職員のみならず事務系職員も、窓口業務などで直ちに活用できることから、大変有意義な研修会となった。



講演する齋藤講師：平成22年7月26日（月）、水道橋校舎血脇記念ホール

#### ■平成22年度教育ワークショップ報告会開催

平成22年7月28日（水）午後4時より千葉校舎教養棟第5教室において、平成22年度教育ワークショップ（報告会）が開催された。今年度は『水道橋移転に伴う基礎科目講義および実習のあり方』、

『臨床基礎実習の再構築』、『水道橋移転に伴う臨床実習のあり方』の3つをテーマとし、井出吉信副学長の挨拶で開会、河田英司教務部長の司会のもと、作業グループの発表および討議がシンポジウム形式で行われた。

『水道橋移転に伴う基礎科目講義および実習のあり方』については、微生物学講座の石原和幸教授、『臨床基礎実習の再構築』に関しては、歯科保存学講座の中川寛一教授、そして、『水道橋移転に伴う臨床実習のあり方』については、歯科麻酔学講座の一戸達也教授を委員長とするワーキンググループにより、検討を重ねてきた結果について発表および質疑応答が行われた。

『水道橋移転に伴う基礎科目講義および実習のあり方』については、水道橋移転に伴う基礎科目講義や実習カリキュラムの検討案が報告された。統合型カリキュラムについては、従来の基礎科目の講義によって十分にその内容の教育が行われているため、従来型の講座別の講義に統合型の科目を加える方向で行うこととなった。カリキュラムの内容としては、基礎と臨床を融合した講義・実習、「循環系」の講義・実習、低学年から知識と実際の臨床の間をつなげていくための“齶蝕学”などが新たに提案された。これらのコンセプトにより、講座間の連携を増やしていく必要性、授業の効果を上げるための授業時間の短縮案なども提案された。

『臨床基礎実習の再構築』については、より効率よく実習内容を履修するために、「検査・診察」、「基本手技」から「メンテナンス」に至るまでの臨床の流れに沿った項目ごとに、各実習の内容を振り分ける項目別実習の提案がなされた。そして、臨床基礎実習終了後に、「知識の統合化」を目的として、統合型実習模型を使用した統合実習を実施し、臨床実習期間中に臨床技能の予備実習にあたる、基礎習熟実習を設置することが提案された。以上を踏まえて、実際の実習期間の割り振り等について、今後検討が必要であるとのことであった。

『水道橋移転に伴う臨床実習のあり方』については、水道橋移転に伴い、新たな臨床実習の枠組みを作る必要性から、過去に同テーマで検討・提案されたものを含め、現在の臨床実習の状況分析結果、さらに他大11歯学部における臨床実習の実



態調査を行なった結果を踏まえた報告がなされた。臨床実習の実施期間は従来とほぼ同じ約1年間を想定し、班編成に関しては、「総合歯科系」、「口腔外科系」、「千葉・市川系」を前・後期で1期ずつローテーションする形をとった。3病院の役割分担や知識・技能・態度の到達目標の明確化、診療計画立案から実際の診療までの総合診療方式の導入、一般歯科医院や総合病院歯科の見学実習の実施などを徹底させることとした。アドバンスコース対象の学生に対しては、一定の期間を定めて姉妹校との学術交流・文化交流に参加させる計画が提案された。

昨年度に引き続き、テレビ会議システムを利用して、市川総合病院・水道橋病院を結び、教職員やティーチングアシスタント等約200名もの出席者が参加した。最後に柳澤孝彰副学長の閉会の辞で締めくくり、午後7時過ぎ盛会の内に終了した。



「水道橋移転に伴う基礎科目講義および実習のあり方」について発表する山崎貴希助教：平成22年7月28日(水)、千葉校舎第5教室



質疑応答風景：平成22年7月28日(水)、千葉校舎第5教室

### ■納谷廣美先生による講演及び、水道橋移転計画の説明会開催

平成22年8月7日(土)午後3時より、水道橋校舎(TDCビル)13階大教室において、「納谷廣美

先生による講演及び、水道橋移転計画の説明会」が開催された。

始めに、明治大学学長の納谷廣美先生を講師にお迎えして「私立大学の進むべき道」と題し、明治大学の取り組みと今後の展望について講演していただいた。

明治大学の強さ(特色)として、①都心回帰、②ブランド力、③伝統、④「個」と「大学」をつなぐネットワーク(同窓会、父兄会)等をあげ、今春の入学試験において、志願者数日本一となった明治大学の改革のコンセプトとその成果について詳細に説明があった。

つづいて、「水道橋移転計画」について、株式会社日本設計より水道橋移転計画における各校舎の概要とコンセプトが説明され、約300名の参加者が説明に熱心に耳を傾けた。

説明会終了後、TDCビル10階にて懇親会が開かれ、各人が将来の水道橋校舎に思いを馳せた中で盛会裏に終了した。



説明を熱心に聴く出席者：平成22年8月7日(土)、水道橋校舎(TDCビル)13階大教室



講演される納谷学長：平成22年8月7日(土)、水道橋校舎(TDCビル)13階大教室

### ■360度評価のための勉強会開催

平成22年8月11日(水)午後2時より千葉校舎

第3教室において、平成21年度に採択された大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラムの取組「個々の患者ニーズに応えられる歯科医師養成～高い倫理観とコミュニケーション能力に基づく総合診療計画立案能力の向上～」において『360度評価のための勉強会』が行われた。

まず、360度評価の意義と活用方法、主たる目的からの評価基準の設定と効果的なフィードバック方法、客観的評価を行うための評価者に求められる事項、他医療機関の導入事例から見える評価者の課題と改善策について講義が行われ、つぎに教育プログラム導入に向けた課題とファシリテーターとしての役割・進め方の検討についてディスカッションが行われた。本勉強会は今後、教員向けに開催する『360度評価のためのファシリテーター養成ワークショップ』の運営委員・タスクフォース養成を目的とし、21名が参加して全体ディスカッションでは予定時間が大幅に超過する程、カリキュラム導入に向けて熱心な討議が行われた。

そして、9月22日(水)午後3時、30日(木)午後5時より、それぞれ実習講義室Ⅱにおいてタスクフォース候補者を含む選抜メンバーによる第2回勉強会が行われ、第1回の内容をベースにロールプレイを行う等、実践的な内容で取り組まれた。



全体ディスカッション風景：平成22年8月11日(水)、千葉校舎第3教室

### ■市川総合病院防災訓練実施

防災週間(8月30日(月)～9月5日(日))に合わせて、市川総合病院では平成22年9月8日(水)に、建物設備等の点検及び自衛消防訓練(通報・避難等訓練)が実施された。

まず、午後1時30分より、栄養管理室前広場において、消火器及び屋内消火栓取り扱い訓練が市川市西消防署員指導により行われ、続いて午後2

時30分から大規模な地震が発生した際の防災センターへの通報訓練が行われた。

午後3時からは、火災発生を想定した屋内消火栓取り扱い訓練及び通報・避難訓練が6階東病棟を発火場所として行われた。患者様の安全を確保するための初期消火活動から実際に模擬患者等を設定して実践さながらの避難・誘導訓練が行われ、最後に講評をいただいて終了となった。



水消火器を用いて放水をする参加者：平成22年9月8日(水)、市川総合病院栄養管理室前

### ■塚越絵里大学院生 第61回日本薬理学会北部会奨励賞を受賞

平成22年9月10日(金)に札幌市の札幌コンベンションセンターで第61回日本薬理学会北部会が開催された。このたびの部会では薬理学講座塚越絵里大学院生が「ラット唾液腺における内因性ベンゾジアゼピン受容体リガンド(DBI)の共役機構」について発表した。この発表により、第61回日本薬理学会北部会奨励賞を受賞し、副賞として全国共通図書カード2,000円が授与された。

塚越大学院生の発表では、ラット唾液腺に存在する内因性ベンゾジアゼピン受容体リガンド(DBI)がジアゼパムを継続投与後に有意に増加し、末梢型ベンゾジアゼピン受容体(PBR)、脳



受賞した塚越大学院生(左)：平成22年9月10日(金)、札幌コンベンションセンター

下垂体アデニル酸シクラーゼ活性化ポリペプチド (PACAP) も同様に増加することがわかった。これらの結果から、DBI、PBR、PACAPの遺伝子が唾液腺にも存在し、ジアゼパムの長期投与によりこれらのタンパク質の産生が促進され、ベンゾジアゼピン受容体の感受性および機能を修飾し、ベンゾジアゼピンによる唾液分泌抑制効果に関与することが示唆された。

### ■第310回大学院セミナー開催

平成22年9月10日(金)午後6時より千葉校舎第2教室において、第310回大学院セミナーが開催された。今回は日本歯科大学生命歯学部 発生・再生医学講座の中原 貴教授を講師にお迎えして「“器官再生法”がもたらす歯の発生・再生研究の新機軸」と題した講演を伺った。

講演は、歯の再生研究が加速している現状とその問題点について、研究の背景的な話から始まった。そして歯の発生研究の基礎知識として欠かせない、上皮-間葉相互作用に関わる現在判明している遺伝子シグナル経路についての解説があった。しかし、そのカスケードは歯冠完成以降の歯根・歯周組織の発生期については十分解明されているとは言えないとの事で、その重要な時期の研究が進まない理由などについてもわかりやすく解説していただいた。中原先生の“器官再生法”はまさしくこの時期に焦点を当て、3次元的に工夫された培養方法、さらには歯根・歯周組織が再生されていく過程での様々な遺伝子発現を今後経時的に明らかにしていくとの事であった。大変内容の濃い有意義なセミナーであった。



講演される中原教授：平成22年9月10日(金)、千葉校舎第2教室

### ■第311回大学院セミナー開催

平成22年9月14日(火)午後6時より千葉校舎第2教室において、第311回大学院セミナーが開催された。今回は北海道医療大学歯学部 生体材料工学分野の遠藤一彦教授を講師にお迎えして「金属系バイオマテリアルにおける生体内劣化反応の防止と表面の機能化による異物性生体反応の抑制」と題した講演を伺った。

歯科用金属材料の腐食反応によって溶出する金属イオンが関与する免疫反応(金属アレルギー)について解説されるとともに、一次刺激の少ない検査・診断方法の開発の必要性について話された。また、口腔インプラントの表面機能化に関して、現在取り組んでおられる「多孔質素材へのHAコーティング」、「耐フッ化物耐食性を改善したTiNコーティングチタンインプラント」、「生体機能性分子を用いたインプラントの化学修飾」についても紹介され、最後にインプラントを利用したバイオセンシングについて提言された。研究と臨床のいずれにも有意義と思われるセミナーであった。



講演される遠藤教授：平成22年9月14日(火)千葉校舎第2教室

### ■松永 智講師 歯科基礎医学会賞を受賞

平成22年9月20日(月)～22日(水)に開催された第52回歯科基礎医学会学術大会・総会(江戸川区・東京)で、解剖学講座 松永 智講師が歯科基礎医学会賞を受賞した。本賞は歯科基礎医学に関する優秀な論文に贈られるもので、解剖学分野において授与された。授賞式は第52回歯科基礎医学会総会の中で行われた。受賞対象となった研究内容は、本来目で見ることができない荷重の伝達経路を可視化し、顎骨骨梁構造の力学的強度を算出することで、海綿骨の支持機能の一端を明らかにしたものである。本研究は、内部骨梁に発生

する応力と骨強度の相関を明らかにすることで顎骨の維持・再生に必要なメカニカルストレスの具体的な数値化が期待でき、歯科臨床への応用が大きく期待されている。



歯科基礎医学会の牧村正治会頭より表彰される松永講師：平成22年9月22日(水)、タワーホール船堀

### ■千葉校舎防災訓練実施

平成22年9月22日(水)午後1時30分より千葉校舎において防災訓練が実施された。

今回は、夜間防災訓練、火元責任者の通報訓練、防災無線通信訓練の3つの訓練が実施された。

始めに行われた夜間防災訓練は、あらかじめ選出された宿直者(口腔外科歯科医師)及び病院勤務者等約20名が参加し、夜間に火災が発生したことを想定して行われた。自力歩行が困難な患者も想定し、担架での搬送も行われ、緊張感のある訓練となった。

続いて、行われた火元責任者の通報訓練では、各教室幹事等の学内における火元責任者約70名が参加し、「地震が発生しました。」という訓練放送後、各自、担当地域を点検、被害状況を防災センターへ報告する訓練を実施した。当訓練は毎回の消防訓練時に実施しており、火元責任者の自覚



夜間防災訓練に真剣に取り組む参加者：平成22年9月22日(水)、千葉校舎管理棟1階

と当該意識の向上を目的としたものであるが、各自の役割が改めて確認できる訓練となった。

最後に、管理棟玄関(防災センター(総合管理室)前)において、防災無線の模擬通信訓練を実施した。施設課技術員、守衛、設備担当者ら6名が、実際に防災無線機を使用して美浜区役所地域振興課(美浜区災害対策本部)と交信し、仮想被災状況の報告等を行った。一時交信が途絶えるなどのハプニングもあったが、実際の被災状況をより切実に感じさせるものとなり、参加者の防火・防災に対する意識を向上させる大変有意義な訓練となった。

### ■試験問題作成を中心としたカリキュラム研修ワークショップ開催

平成22年9月25日(土)、26日(日)、水道橋校舎13階において、試験問題作成を中心としたカリキュラム研修ワークショップ(第27回カリキュラム研修ワークショップ・第9回試験問題作成に関するワークショップ)が開催された。今回は、学習目標の設定、学習方略の立案および学習評価法の策定等の教育原理を研修し、それらをふまえた多肢選択式試験問題作成のスキルアップを主眼に、歯科医学における基本的な知識の理解と総合的な診断能力・問題解決力を総括的に評価する能力の向上を図った。本務教員32名、レジデント2名を対象に、カリキュラム・プランニングや多肢選択式試験問題の作成法、360度評価に関する8つのセッション、2つのレクチャーからなるプログラムが実施された。

5グループに分かれ、限られた時間内にグループ討議、問題作成演習、グループ発表を行う凝縮された内容のワークショップに参加した受講者



グループ発表風景：平成22年9月26日(日)、水道橋校舎13階ルームB

からは、「カリキュラム・プランニングを実践してみることにより、今までの教育方法に見直しが必要だと感じた」「試験問題の作成やブラッシュアップの方法を知ることができた」等の感想が挙げられた。最後に、受講者に修了証書が授与され、2日間の日程を終了した。本ワークショップを今後も継続して実施することにより教育体制の改革と教育指導のより一層の充実を目指している。

### ■第96回歯科医学教育セミナー開催

平成22年9月27日(月)午後6時より千葉校舎第2教室において、第96回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、医歯専門予備校メルリックス学院学院長 田尻友久先生を講師にお迎えして、「専門予備校から見た歯科大学 ー特に受験生の目線でー ~受験生が抱く私立歯学部へのイメージとイメージ向上への提言~」と題した講演を伺った。

まず、入学志願者数が対照的に推移している歯学部(歯科医師)と医学部(医師)それぞれの受験生の持つイメージについて比較紹介があった。受験生は、歯学部(歯科医師)に対し、歯科医師過剰の問題や儲からないといった一部メディアにより誇張されたマイナスのイメージや歯科医師は単純作業という誤解により、その将来性に不安を抱いているとのことであった。一方で、医学部(医師)に対しては、やりがいがあり、国際的な活躍ができ、日々進歩しているという希望のあるイメージを持っているとのことであった。

そこで、私立歯学部イメージアップの具体的な提案がなされた。イメージアップ向上には、受験生が志望学部を決める基準で上位に位置している「先生や親・友人に勧められて」という点に着目すべきとのことであった。高校の教員は、進学者の少ない歯学部に関する情報量が少なく、国家試験合格率も低いので受験生に勧めることはできない。また、歯科医師ではない親はイメージが湧かないため、メディア等からのイメージの影響を受けて判断しているのが現状である。そこで、そういった方を対象としたアピール活動を充実させるべきとのことであった。内容としては、歯科医師数の将来見通し、新たな分野(QOL、歯科麻酔医、口腔外科など)の紹介、女性が一生続けられる仕事、開業以外にも勤務医・研究など幅広い進路等

の歯科の魅力を発信するとともに、歯学部付属病院や、在学生の家庭環境など、あまり知られてない情報を積極的に伝えるべきである。また、理系より進学者の多い文系受験生を取り入れるために、文系受験者でも受験しやすい科目に変更するべきではないかとのことであった。

最後に、本学が優秀な学生を集めるための提案として、入試広報の見直し、入試制度の工夫等が挙げられた。

当日は、約110名もの参加者が集まり、大変有意義なセミナーとなった。



講演される田尻学院長：平成22年9月27日(月)、千葉校舎第2教室

### ■平成22年度解剖諸霊位供養法会

平成22年9月28日(火)午後2時30分より、水道橋校舎血協記念ホールにおいて、平成22年度解剖諸霊位供養法会が執り行われた。

金子 譲学長はじめ大学幹部、関係教職員、第2学年学部学生、歯科衛生士専門学校学生代表、ご遺族ならびに東京歯科大学白菊会の方々が参列し、歯科医学の教育と研究のため尊いご意志を持って献体戴いた諸霊位に対し感謝の意を捧げ、ご冥福をお祈りした。本学開設以来4千有余柱の



祭文を奉読する金子学長：平成22年9月28日(火)、水道橋校舎血協記念ホール

御霊に向かい、真珠院 石井道彦導師により誦経が行われ、金子学長が祭文を奉読したのち参列者全員の献花が行われた。

続いて、学生を代表して第2学年の高崎史義さんよりご遺族に対して挨拶があり、次に、ご遺族を代表して三浦春子様よりご挨拶を戴き、本年度の解剖諸霊位供養法会は滞りなく終了した。

その後、ご遺族ならびに大学関係者が、文京区小石川の真珠院を墓参し散会となった。

### ■第312回大学院セミナー開催

平成22年9月29日(水)午後6時より千葉校舎第2教室において、第312回大学院セミナーが開催された。神奈川歯科大学歯学部生体管理医学講座薬理学分野・ESR研究室の李 昌一教授をお迎えして、「活性酸素・フリーラジカル測定技術の歯科臨床への応用ーチタンオッセオインテグレーションにおける活性酸素種の役割ー」と題した講演を伺った。

講演は、まず活性酸素種および酸化ストレスの定義を聴講者にわかり易く説明いただいた。それを踏まえ、生命活動や歯科疾患を含むあらゆる疾

患の発症、また心理的ストレスにも活性酸素種が密接に関連する事実をご自身の膨大な研究データを元にご紹介いただいた。心理的ストレスの軽減に咀嚼運動が密接に関与することを脳内活性酸素種の増減で示されたこと、チタン表層から産生される活性酸素種がオッセオインテグレーションに適した環境に関与することなどが興味深かった。熱のこもった語り口でわかり易く説明して下さった今回の講演は、聴講者の研究意欲と創造性を刺激するものであった。



講演される李教授：平成22年9月29日(水)、千葉校舎第2教室

## 教職員への移転関係報告 (6)

平成22年9月29日

教職員 各位

理事長 熱田 俊之助  
学 長 金子 讓

### 移転計画の進捗状況（実施設計）について

大学の水道橋移転計画については、基本設計を完了し、8月7日開催の移転計画説明会において日本設計からの説明と質疑応答等を実施して参りました。

現在は、頂きましたご意見等を基に実施設計（施工者入札及び発注用の図面作成）の段階に入りましたのでご報告いたします。

教職員各位におかれましては、本計画へのご理解・ご協力をお願いいたします。

今後もお知らせについては随時ポータルサイトを通じて行いたいと考えております。

# トピックス

## ■私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 (hrc 8) 採択

口腔科学研究センターでは私立大学戦略的研究基盤形成支援事業への新規プロジェクト申請の準備を1年にわたって行い、hrc第8プロジェクト(通称:hrc 8)として申請したところ、平成22年4月13日に課題採択の通知を受領した。本プロジェクトの研究期間は平成22年度～平成24年度の3年間を予定している。

### ◎名称

東京歯科大学 口腔科学研究センター  
平成22年度 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 (hrc 8)

「上皮からみた口腔機能の特異性基盤の解明と疾患制御」

### ◎目的

口腔は常に外来からの侵害刺激にさらされており、上皮機構の破綻から病態が進行する特徴を持つ。この刺激を防御すること、特に口腔を覆う上皮の破綻を抑えることが出来なければ恒常性を維持することは難しい。本プロジェクトは口腔上皮組織を対象とし、恒常性維持の特異的なメカニズムと免疫機能の維持と破綻のメカニズムを解明することにより、口腔疾患および全身性疾患の発症を抑制することを目的とする。

### ◎基本方針

大学としての競争力獲得、特に競争的研究資金を確保し、若手研究者を育成するには、単独講座の研究では限界があり、学際的研究が必要である。本プロジェクトはこれを具現するために、HRC 7と同様、研究は講座研究とは離れ口腔科学研究センターでプロジェクト研究として行う、研究費はhrc 8で一括管理しグループ会議を通して必要に応じて配分する。

### ◎研究計画

#### 1.上皮機能研究グループ

1) 上皮機能維持に関わる分子動態とその超微構造解析、2) 唾液・上皮細胞における上皮バリア維持の分子動態と微細解析、3) ストレス応答に対する常態維持・破綻過程の微細解析、4) 粘膜支配三叉神経節ニューロンの機能分子の代謝機構解析と超微構造解析

#### 2.免疫機能・トランスレーショナル研究グループ

1) バイオフィルム形成因子とその確立の微構造解析、2) 口腔内細菌叢モデルの確立、3) 複数菌による菌凝集の作用と細胞侵入の微構造解析、4) 生体素材の上皮に対する毒性を回避する特異的アミノ酸の検討、5) 素材表面特性の超微構造解析

### ◎組織 (平成22年10月1日より)

コーディネーター 吉成 正雄 教授

hrc 8 - 1 (上皮機能研究グループ)	hrc 8 - 2 (免疫機能・トランスレーショナル研究グループ)
リーダー 澁川 義幸 講師	リーダー 阿部 伸一 教授
サブリーダー 村松 敬 講師	サブリーダー 国分 栄仁 助教 稲垣 覚 助教
学内研究者 柴原 孝彦 教授 矢島 安朝 教授 佐野 司 教授 笠原 正貴 講師 恩田 健志 助教 本間 慎也 助教 佐々木 穂高 助教 坂本 潤一郎 助教 四宮 敬史 助教 別所 央城 助教 津村 麻記 助手	学内研究者 新谷 誠康 教授 東 俊文 教授 加藤 哲男 准教授 君塚 隆太 講師 齋藤 淳 講師 山田 将博 助教 山本 康人 助教 桜井 敦朗 助教 落合 宏美 助手
PF 佐藤 正樹 Sobhan Ubaidus	
	研究員 石岡 みずき
RA 黒田 英孝	
学外研究者 杉谷 博士 教授 (日大・生物資源科学) 佐原 資謹 教授 (岩手医科・歯) 富岡 俊也 助教 (東大・医)	

## ■第34回日本口蓋裂学会総会・学術集会開催

平成22年5月27日(木)および28日(金)の2日間、第34回日本口蓋裂学会総会・学術集会が、本学口腔外科学教授 内山健志大会長のもと、東京都北区王子「北とびあ」に於いて開催された。

本学術集会の記念すべき第1回大会は、今から33年前、昭和52年(1977年)に本学名誉教授である故高橋庄二郎大会長のもとに開催されている。以来、各専門分野の方々によって、患児のよりよい治療と社会復帰を願い、脈々と行なわれてきた

歴史ある学会である。

今回は、「口唇裂・口蓋裂チーム医療の前進をめざして Advancing Interdisciplinary Care for Patients with Cleft Lip and/or Cleft Palate」をメインテーマとして、それぞれの専門分野から造詣の深い講師の方々をお招きし開催された。学会の概要を報告すると、海外特別講演は、Dalhousie大学のProfessor Preciousによる「Function: The Road to Good Ethhetics in Primary Cleft Lip Repair」と題する口唇裂一次手術についての講演が、また、Cincinnati大学のSpeech PathologistであるProfessor Kummerからは「Evaluation and Treatment of Velopharyngeal Dysfunction」と題する鼻咽腔閉鎖不全についての講演がおこなわれた。教育講演として、慶應義塾大学 小崎健次郎先生に「多発奇形症候群と口唇裂・口蓋裂」、また、昭和大学の三邊武幸先生と小林一女先生には「口蓋裂の中耳炎」と題する講演をしていただいた。さらに主題講演およびシンポジウムを「口唇裂・口蓋裂の分子遺伝学研究」および「両側唇顎口蓋裂の二次症例に対するチーム医療」とし、基調講演をそれぞれ長崎大学 吉浦孝一郎先生、大阪府立母子保健総合医療センター西尾順太郎先生にいただいた。今学



特別講演される Prof. Precious: 平成22年5月27日(木)、北区王子 北とびあ



特別講演される Prof. Kummer: 平成22年5月27日(木)、北区王子 北とびあ

会のメインテーマが「口唇裂・口蓋裂チーム医療の前進をめざして」であることから、関連する歯科の口腔外科、矯正歯科、小児歯科、補綴科や形成外科、耳鼻科領域からの演題だけではなく、言語聴覚士から看護師、助産師、ソーシャルワーカーにいたるまでの幅広い分野からの演題申し込みがあり、最終的に、一般演題は、口演71演題、ポスター64演題の計135演題の発表があった。最終的な学会参加者は、一般会員および研修医や大学院生などを含め、748名が集まり、それぞれの発表において、活発な質疑応答がおこなわれた。学会初日終了後に行なわれた会員懇親会でも、入場制限を越えるほどの参加があり、会員間の有意義な交流がはかられ、成功裡にすべてを終えることができた。

### ■がんプロフェッショナル養成プラン「大学院生プロジェクト」に本学大学院がんプロコース大学院生5名が採択

本学が平成20年度より参加している9大学13研究科のプロジェクト、「がんプロフェッショナル養成プラン—南関東圏における先端的がん専門家の育成—」（主幹:北里大学）では、毎年がん専門医養成コースに在籍する大学院生を対象に臨床的研究マインドを涵養することを目的に、「大学院生プロジェクト」として研究費の公募が行われている。

今年度は本学から7名が応募した。13研究科全体で21名の応募があり11名が採択されたが、そのうち本学から約半分を占める5名が口腔がんに関するTranslational researchで採択され、1人あたり40万円の研究費が交付されることとなった。本公募は大学院生が研究計画調書を提出し、13研究科で構成される研究委員による審査を経て採択されるものである。審査委員は本学以外は全て医科系の教員であり、本学大学院生の研究内容が他分野からも高く評価されたと結果といえる。

採択者5名は平成22年9月29日(水)に大学会計課担当者から研究費使用に関する説明を受け、本学での研究費使用ルールについて理解を深めた。

### ■がんプロフェッショナル養成プラン 外部評価委員会開催

平成22年8月5日(木)にクロス・ウェーブ府中にて、がんプロフェッショナル養成プラン 外部



評価委員会が開催された。

がんプロフェッショナル養成プランは、北里大学を主幹とした9大学13研究科の共同事業体であり、全体の事業評価のため評価委員会が設置され、医療系関係者を中心に6名の外部評価委員が委嘱されている。本年度は共同事業体としての中間評価を文部科学省に提出したことから、この中間評価に関する外部評価委員会として開催され、本学からは井上 孝大学院研究科長、片倉 朗コーディネーターが出席した。当日は、医学、薬学、看護学、放射線物理系の各研究科からのプレゼンテーションがあり、本学からは片倉コーディネーターが「口腔がん専門医師養成コース及びインテンシブコース」についてプレゼンテーションを行った。

質疑応答を経て、外部評価委員ならびにグループ校の委員からも本学はコースカリキュラムが評価方法も含めて綿密に生まれ、かつ大学院・病院・事務の密接な連携によって文部科学省の方針に沿った適切な運営が行われていると高く評価された。

#### ■平成22年度老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）の国庫補助の交付について

平成22年9月28日（火）、学校法人東京歯科大学（理事長 熱田俊之助）は平成22年度老人保健健康増進等事業国庫補助金の交付を受けた。概要は以下の通り。

事業名：予防給付及び介護給付における口腔機能向上サービスの推進に関する総合的研究事業

事業目的：予防給付及び介護給付における口腔機能向上のプログラムに運動器の機能向上、栄養改善の各プログラムを組み合わせることで、対象者の口腔

機能向上、サービス提供事業所の業務の効率化を検証する。

事業計画実施計画:

① モデル事業は各事業所において、サービス対象者を2群に分け、平成22年9月～11月に複合サービスを実施するものと、加算サービスを行わないもの、又は単独でサービスを提供するもの（現行のサービス提供方式）にわけて、サービス提供前、提供中、提供後の状態を調査する。次に後半の平成22年12月～平成23年2月において、最初の3カ月に複合サービスを実施しなかった利用者に対して、複合サービスを実施して、同様にサービス提供前、提供中、提供後の状態を調査する。

② 全国8地域のモデル事業実施事業所において、平成22年10月～12月にかけて、事業所周囲の予防給付及び介護給付にかかわる職種に対する研修会を開催する。本研修会は実地研修を中心に構成し、複合サービスプログラムを実施できる人材を育成することを目的とする。また、研修会参加者に対してアンケート調査を行い、その効果や可能性について検討する。

国庫補助所要額：25,000千円

事業実施予定期間：平成22年6月21日から平成23年3月31日まで

事業実施予定場所：各地域の指定通所介護事業所、指定介護予防通所介護事業所、指定通所リハビリテーション事業所、指定介護予防通所リハビリテーション事業所

事業担当者：東京歯科大学市川総合病院 講師 渡邊 裕

経理担当者：東京歯科大学市川総合病院会計課 薬師寺 淳

## 海外交流

#### ■中国・四川大学華西口腔医学院 周 学東院長 金子 譲学長を表敬訪問

平成22年7月29日（木）、中国・四川大学華西口腔医学院の周 学東院長をはじめとする教員8名と学生7名が、千葉校舎に金子 譲学長を表敬訪問した。周院長および一行は、特別会議室において金子学長と懇談し、記念品の交換がなされた後、記念撮影を行った。



記念撮影：平成22年7月29日（木）、千葉校舎特別会議室

## 長期海外出張者報告

### ■口腔外科学講座 講師 野村武史

平成21年7月1日より1年間、カナダ・ブリティッシュコロンビア大学歯学部のpost doctoral fellowとして口腔がん予防プログラムチーム（以下OCPPと略す）に参加し、臨床研究をさせていただきました。

私が過ごしたバンクーバー市は、カナダのブリティッシュコロンビア州南西部に位置する同州最大の都市であり、最近では2010年冬季オリンピックの開催地として知られています。ロッキー山脈とジョージア海峡に囲まれた美しい都市で、比較的温暖な気候のため過ごしやすい環境でした。

私はここで2つの大学と病院を行き来する毎日でした。まず冒頭のブリティッシュコロンビア大学は州立の総合大学で、1908年に設立された西部カナダ最大の名門大学として知られています。また、主な研究活動の場となったサイモンフレイザー大学は隣町バーナビー市に本拠を置く大学で1965年に創設、環境学やビジネス、犯罪学/刑事法学の名門校として知られています。さらにカナダ屈指の癌研究施設を備えたBCがんセンターがバンクーバー市の中心部にあります。ここでは主に臨床研修と統計学的解析を行っていました。

私の研究を指導したLewei Zhang教授はブリティッシュコロンビア大学歯学部のfull professorであると同時に、OCPPの一員でもあります。OCPPとは口腔癌の予防・早期発見を目的とする研究グループであり、異業種で構成されたチームです。OCPPはいくつかの専門クリニックを開設しており、患者のフォローアップから臨床研究、そして学生の指導まで幅広く活動しています。OCPPのチームリーダーはサイモンフレイザー大

学運動生理学部のMiriam Rosin教授であり、そしてBCがんセンター Oral Oncology Clinicで癌および前癌病変患者のフォローアップを担当しているのがブリティッシュコロンビア大学歯学部 Catherine Poh 准教授です。現在までにこのチームで得られた成果として、3番染色体短腕および9番染色体短腕の欠失(LOH)が前癌病変の癌化に大きく関与してことがあげられます。さらに口腔癌診断機器(蛍光照射器) Velscopeを開発したことでも知られています。

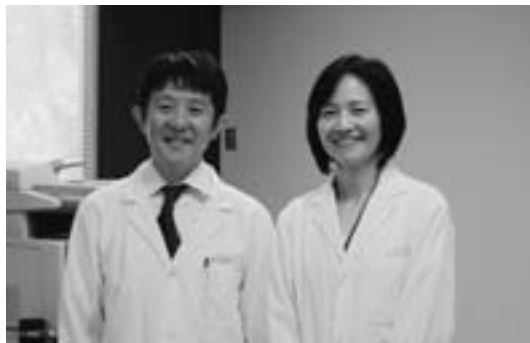
私がOCPPで与えられたテーマは、「口腔癌患者の術後再発を予測する因子」に関する研究で、フォローアップ中の口腔癌術後患者186例の生検サンプルからDNAを抽出しLOH解析を行いました。また臨床研修をOral Oncology Clinicでおこない、主としてVelscopeの使用法、トルイジンブルー生体染色を含めた口腔癌スクリーニングの評価法、データ収集の仕方などを学びました。

私は、ここで3人の指導医が口腔癌の早期発見というひとつの目的に向かって情報を共有しながら活動しているのを見て、チーム活動の大切さ、そして口腔癌を歯科医師が担う役割の重要性を改めて学ぶことができました。このことは口腔がんセンターを持つ東京歯科大学にも還元できるものと考えます。

この度、このような長期にわたる海外出張の機会を与えてくださいました関係の方々に感謝申し上げますとともに、今後はここで得た知識や経験を東京歯科大学に役立つことができればと思います。また海外での生活の素晴らしさを教育に活かせるよう一層精進する所存であります。



(左より) 野村講師、Miriam Rosin 教授、Lewei Zhang 教授：サイモンフレイザー大学ミーティングルーム



野村講師(左)とCatherine Poh 准教授(右)：BCがんセンター Oral Oncology Clinic

## 学生会ニュース

### ■第42回歯学体結団式開催

第42回歯学体結団式は、平成22年7月8日(木)午後12時20分から体育館2階アリーナに参加クラブが一堂に会して行われた。

金子 譲学長から「一昨年は3位、昨年は準優勝と一つずつ順位を上げているので、優勝を目指して頑張ってください。」また、佐藤 亨学生部長からも「日頃の成果を発揮して、怪我のないように頑張ってください。」と挨拶を頂いた。

運動部長挨拶は、バドミントン部主将永澤祐麻君(4年)、選手宣誓は、バレーボール部主将大島俊彦君(4年)が行い、共に「東歯代表として正々堂々と優勝目指して頑張ります。」と力強い宣誓を行った。

その後、各クラブ主将から金子学長に目標と意気込みが伝えられた後、参加者全員で校歌を斉唱して閉会した。



力強く選手宣誓、バレーボール部主将大島君(4年)：平成22年7月8日(木)、千葉校舎体育館

### ■第37回APDSA (アジア太平洋歯科学学生会議) 日本大会参加報告

第37回アジア太平洋歯科学学生会議(Asia Pacific Dental Students Association=APDSA)が8月16日(月)～21日(土)に箱根町(神奈川県)と船橋市(千葉県)で開催され、アジア太平洋諸国12カ国から453名(チェコ、モンゴル、フィジーからの参加者も含む)、日本の12大学から70名の歯科学生および研修医が参加しました。APDSAは1967年、言語や文化、宗教の異なるアジア太平洋諸国において「歯科」という共通の職業を通じ、理解を深め合うことを目的に設立されました。FDI(世界歯科医師連盟)会長、各国の歯科医師会長、学部長、病院長として活躍されている方々の中にも、この会議

の参加経験者も少なくありません。我々が何よりも大変だったことは初めて経験する国際会議の主催で、8名の学生委員会にとって毎日が大変な6日間でした。多くの日本人学生が、アジアの歯科学生と寝食を共にすることにより、習慣など様々なことを学ぶことが出来たのは大きな収穫となり、おぼろげながらも自身の将来像を獲得できたと確信しています。帰国の途につく別れ際、「日本にいられて本当に良かった。」と言葉を聞いたとき、準備に費やしてきた2年間の月日が報われました。この会議は次世代育成を柱としており、歯科界の各分野で活躍する著名な歯科医師が、惜しめない協力を続けられています。今回も大学あるいは国の枠をこえた信頼関係が深まったと信じています。前回の日本大会から9年ぶりの開催でしたが、同じ目標に向かって培った「絆」は、今後さらなる発展を続けるアジア諸国の多くの歯科学生によって、大きく育まれる環境を構築することが出来ました。来年の38回大会は、タイのChulalongkorn大学他9大学の主催で開催されます。国際的見識を養うためにもぜひ多くの日本人歯科学生の参加を望みたいです。

(国際医療研究会 APDSA担当 池田麻乃(4年)、金子かおり(4年)、本田健太郎(3年))



同じ班になった東南アジアのメンバーとともに：平成22年8月17日(火)、箱根・芦ノ湖

### ■第42回歯学体報告会

第42回歯学体報告会が、9月17日(金)午後6時30分から厚生棟1階食堂で行われた。前回の総合準優勝から一つ順位を落として総合第3位となってしまうが、各クラブの健闘が光った。

開式の言葉、19参加部門の各クラブ主将からの挨拶に引き続き、金 智英歯学体副評議員(3年)

から力強い声で「歯学体総合第3位」と金子 譲学長に報告がなされた。

金子学長から「各クラブの健闘に対して労いの言葉と、来年こそは優勝と激励の言葉」を祝辞として頂いた。さらに優勝・準優勝を成し遂げたクラブに金子学長から学長賞が手渡された。

次に、父兄会賞授与が入賞・ポイントを獲得した各クラブに佐藤 亨学生部長から授与された。

毎年のことだが、学長賞・父兄会賞授与では各



祝辞を述べる金子学長：平成22年9月17日(金)、千葉校舎厚生棟1階食堂

クラブに対して大きな拍手が起こり、授与されなかったクラブ部員は「来年こそは・・・」と意気込む表情を伺うことが出来た。

柳澤孝彰副学長の乾杯の発声を終えると同時に会食が始まりクラブ部長やOBの方々とは懇親する姿が見られた。

宴もたけなわの中、午後7時30分過ぎに無事終了した。



2連覇で金子学長より「学長賞」を受け取るバドミントン部員：平成22年9月17日(金)、千葉校舎厚生棟1階食堂

## 図書館から

### ■ 本学教員著書リスト

(本学の教員名が標題紙に記載されているものに限定)

武田孝之[ほか]著 歯の欠損から始まる病気のドミノ 医歯薬出版 2010

櫻井 薫[ほか]編 高齢者歯科診療ガイドブック 口腔保健協会 2010

武田孝之[ほか]著 Maxilla-oriented implantology = 多数歯欠損・無歯顎症例のインプラント治療 ゼニス出版 2010

佐藤 亨 監訳 チェンジユア スマイル クイックテンセス出版 2010

平田創一郎[ほか]著 すぐに使える! 歯科診療室での医療安全実践ガイド 医歯薬出版 2010

○本学教員の著書については、特に収集に努めております。著書発刊のおりには、図書館へ、ご一報くださいますようよろしくお願いいたします。

### ■ 「一歩すすんだ医学情報の収集と管理方法」講習会開催

平成22年7月6日(火)午後6時より、千葉校舎第2教室において、口腔科学研究センター・新谷益朗准教授を講師にお迎えし、「一歩すすんだ医学情報の収集と管理方法」と題した講習会を実施した。当日参加者は学外者を含めて24名であった。

医学文献の検索ではPubMedや医中誌Webを使うことが多いが、それらにとどまらず、引用文献データベース「Scopus」、文献向けソーシャル



講演する新谷准教授：平成22年7月6日(火)、千葉校舎第2教室

ブックマークの「CiteULike」、無料でありながら高機能な文献管理ツール「Zotero」などの紹介をさせていただいた。

アンケートでは参加者全員の方が「ほぼ満足」「非常に満足」と回答しており、大変好評を得た結果となった。

#### ■医学文献検索講習会開催（市川総合病院）

平成22年9月8日（水）市川総合病院図書分館において、午後5時からと6時からの2回にわたり、医学文献検索講習会を開催した。本講習会は去る5月に千葉校舎にて開催され、好評だったことを受けて開催となったもので、医科関係の主要な文献データベースであるPubMed、医中誌Web、Scopusでの文献検索の他、当院から使用できる電子ジャーナルの探し方、蔵書検索、文献複写依頼の方法について、実際にパソコンを操作しながらの実習形式で行われた。2回で22名の参加者があり、アンケートでは「新しい検索エンジンを



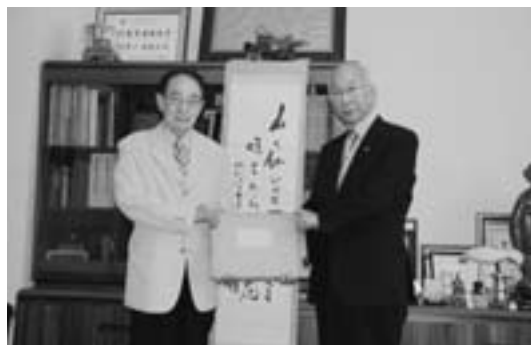
実習形式で行なわれた医学文献検索講習会の様子：平成22年9月8日（水）、市川総合病院図書分館

ることが出来てよかった」、「新しいバージョンなど出た場合は必ず講習会をお願いしたい」など積極的な意見が寄せられた。

## 〈大学史料室から〉

### ■血脇守之助先生揮毫の掛軸ほかの寄贈を受ける

平成22年7月、愛知県豊橋市在住の西村秀祐先生（五十鈴会 昭和25年卒）から、血脇守之助先生揮毫の掛軸一幅、ご尊父西村禎祐先生（大正8年卒）の卒業アルバム、および東京歯科大学の校舎写真をご寄贈いただいた。掛軸には「山で紅いのはつつじにつばき 咲いてからまる藤の花」と磯節の一節が書かれている。磯節は茨城県東部の大洗・那珂湊周辺の漁師たちの船こぎ歌が、その後三味線の伴奏がつき座敷唄となって全国に広まった民謡で、血脇先生の別の一面をのぞかせる貴重な史料である。アルバム・写真ともども、大切に保管し、後世に伝えたい。



〈寄贈品の掛軸、アルバム〉西村先生と金子学長：平成22年7月8日（木）、千葉校舎学長室

## 歯科衛生士専門学校ニュース

### ■学校説明会開催

平成23年度の東京歯科大学歯科衛生士専門学校への入学希望者を対象とした学校説明会が、平成22年6月19日（土）午前、および7月29日（木）午前・午後の2部と8月19日（木）午前に行われた。

この説明会は、歯科衛生士という職業と本校の特徴を理解してもらい、できるだけ多くの受験生を募る目的で、実施しているものである。6月の第1回目には40名の志願予定者と18名の保護者の参加、7月の第2回目には午前の部は40名の志願予定者と19名の保護者、午後の部は11名の志

願予定者と9名の保護者の参加があり、8月の第3回目には44名の志願予定者と29名の保護者の参加があった。総参加者数は135名の志願予定者と75名の保護者（総計210名）であり、昨年の同時期に行った学校説明会と比べて若干の増加が見られた。本校では社会人特別選抜枠を設けていることから、その内8名の社会人の参加もみられた。

説明会では、歯科衛生士の職務・将来性、本校の特色、学生生活などについてスライドを交えて紹介した後、3年生の学生たちによる最新の設備を用いた臨床基礎実習のデモンストレーションを

行った。ついで在学生たちとともに、大学の各施設、千葉病院を見学し、最後に来年度入学試験に関する説明を行った。本学が歯科大学に併設されていることのメリットや充実した設備と講師陣、3年制によるレベルの高い教育と、本年度の卒業生の約半数が、大学病院あるいは総合病院、事業所等へ就職したことなどを伝え、参加者の入学の意欲を高めることができたと感じられた。

昨年の学校説明会から、早い時期の6月に第1回を行うと共に、志願予定者の質問を個別に受けるため学校説明会終了後に、入学試験やカリキュラム、学校生活、学費・奨学金、歯科衛生士の業務・授業内容、在校生との交流など、各ブースに分かれて相談会を開催し細かな対応を行った。

学校説明会終了後のアンケートでは、実際の学校施設を見学すると共に講師や在学生と接することができたことで、学校の雰囲気がよくわかり参加して良かったとの意見が多く聞かれた。

### ■薬師寺 仁先生に名誉講師の称号授与

東京歯科大学歯科衛生士専門学校教員会の推薦により、薬師寺 仁先生に歯科衛生士専門学校の名誉講師の称号が授与された。薬師寺先生は、昭和61年6月1日から平成元年5月31日まで主事(現副校長)を務め本学の千葉への移転にご尽力され、平成13年6月1日から平成16年5月31日まで校長を務め本校3年制への移行にご努力された。また、昭和62年4月から平成10年3月まで齶蝕予防処置

法正講師を11年間、平成10年4月から平成20年3月まで小児歯科学正講師を10年間、平成14年4月から平成17年3月まで歯科衛生士概論および臨床実習正講師を3年間、平成16年4月から平成17年3月まで行動科学正講師を1年間、通算では昭和62年4月から平成20年3月まで21年間正講師を務められ、長年にわたって歯科衛生士教育に多大なるご尽力をいただいた。

名誉講師称号記授与式ならびに懇親会は、45名の教員の出席のもと、平成22年9月7日(火)午後5時50分より第1会議室横口ビー(血脇守之助先生胸像前)での記念写真の撮影に引き続き、午後6時より厚生棟2階食堂において行われた。石井拓男校長より、薬師寺先生の学生たちへの信頼と情熱溢れる講義、歯科衛生士教育への長年の功績に対する賞賛が述べられ、続いて金子 譲学長より薬師寺先生の長年のご苦勞を慰労されるご挨拶をいただいた。その後、石井校長より名誉講師称号記が授与された。挨拶に立たれた薬師寺先生は、謝辞を述べられるとともに、心に残る思い出も多かったことなど、充実した教育の時間を振り返ってお話をされた。続いて、井出吉信副学長よりご挨拶と先生の次なる新しい門出を祝して乾杯のご発声をいただいた。会食歓談を交え柳澤孝彰副学長よりご挨拶をいただき、午後7時30分には名残惜しくも、薬師寺先生の今後のご健勝を祈りつつ、一同、拍手でお送りして閉会となった。



記念写真：平成22年9月7日(火)、千葉校舎管理棟2階 血脇守之助先生胸像前



名誉講師称号記を手に挨拶をされる薬師寺先生：平成22年9月7日(火)、千葉校舎厚生棟2階

## 平成22年度科学研究費補助金決定

平成22年度科学研究費補助金は、平成22年6月9日付で文部科学省および日本学術振興会から配分額の決定が通知された。

本年度、本学に交付される科学研究費補助金の研究種目別決定額および研究者別交付額は別表のとおりである。

### 平成22年度科学研究費補助金交付決定一覧

平成22年9月1日現在

研究種目	件数	交付決定額 (千円)		
		直接経費 (研究費)	間接経費	合計
基盤研究 (B)	2	10,900	3,270	14,170
基盤研究 (C)	28	28,300	8,490	36,790
挑戦的萌芽研究	1	700	0	700
研究活動スタート支援	1	700	210	910
若手研究 (B)	15	15,600	4,680	20,280
合計	47	56,200	16,650	72,850

## 科学研究費補助金 平成22年度新規採択課題の要旨

基盤研究(B) 新谷 誠康 教授

### 「遺伝性エナメル質形成不全症の原因探査と遺伝子診断法の企画」

遺伝性エナメル質形成不全症は、エナメル質の形成に関与する高度に特異化した遺伝子の変異が原因と考えられている。これまでにいくつかの遺伝子の変異がエナメル質形成不全症を引き起こすことが報告されてきたが、疾患全体から見ればこれらはほんの一部に過ぎず、その全貌はまだ解明されていない。本研究の目的は、歯の形成不全を有する患者のゲノムDNAを調べ、未解明な原因の発見解明を行うことである。また、すでに変異がエナメル質形成不全症を引き起こすことがわかっている遺伝子においては、その変異の部位の更なるデータの蓄積をめざすものである。さらに得られた結果が形成不全症患者の遺伝子診断に活用できればと考えている。

基盤研究(C) 芹田 良平 准教授

### 「高濃度二酸化炭素暴露による付加価値赤血球が敗血症ショックに及ぼす影響」

高濃度の二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) の暴露によりアロステリー変化を受けたヘモグロビン血 (CO<sub>2</sub>-hemoglobin 血) は、その構造的変化 (T-state) か

ら酸素放出能の増加により組織の酸素摂取率を増加させ、酸素需給バランスを改善するだけでなくATP放出によるレオロジー変化により末梢循環をも改善し、敗血症ショックの心拍出量維持および組織低灌流障害に効果的である可能性がある。そこで、CO<sub>2</sub>-hemoglobin 血の投与が、敗血症ショックの心機能障害及び血管内皮障害に与える影響をラット敗血症ショックモデルで検討する。本研究の仮説が証明され、臨床への応用が可能となれば、敗血症患者の死亡率の改善に著しく貢献する可能性があり、新たな輸血療法の発展にもつながる可能性を秘めている。

基盤研究(C) 兼子 智 講師

### 「精子品質管理による不妊治療の安全性向上-精子頭部空胞とDNA損傷の関連性解析」

ヒト精液にはDNA損傷を認める精子が混在し、兼子らはその高精度検出法およびDNA損傷精子の分画、排除法を開発してきた。ヒト精子には頭部(染色体収納部位)に空胞を認めるものが高頻度で存在するが、ほとんどの不妊治療施設は精子DNA損傷ならびに空胞を考慮せずに顕微授精(ICSI)を施行してきた。今、空胞は精子DNA損傷の原因となるのか、さらにこれらがICSI児の

健全性に影響するか、深刻な論議となっている。本研究は精子頭部空胞とDNA損傷の関係を明らかにし、それらの臨床的意義を検討する。我々は診断を目的とした精子機能評価(精子細胞診)を生殖補助医療(ART)に導入し、最終的に精子取り扱い規約策定を目指す。これにより、ARTによる出生児の健全性確保に寄与したい。

基盤研究(C) 佐竹 良之 講師

#### 「培養口腔粘膜上皮シートと血管新生」

瘢痕性角結膜症に対する眼表面再建術として口腔粘膜上皮を用いた培養上皮シート移植の有効性が示されている。しかし、移植後に安定した眼表面が得られた症例でも、数ヶ月経過すると角膜周辺部に血管侵入を認め、この血管侵入が瞳孔縁まで進展すると視力低下の原因となりうる。当施設で作製している培養口腔粘膜上皮シートには、羊膜を基質としたものと基質をもたないものがある。臨床経過として基質のない培養口腔粘膜上皮シート移植後では血管侵入が少ない傾向が認められる。今回、この培養口腔粘膜上皮移植後の血管新生の機序を解明することで、培養条件の見直し術式の選択、術後管理の見直しなど再生医療へのフィードバックが期待できる。

基盤研究(C) 石上 恵一 教授

#### 「ガム咀嚼はストレスを緩和する」

複雑な情報化社会の進展により増加するストレスは、多くの問題を引き起こし、その原因の解明とストレスへの対応は、心身の健康を維持する上で重要である。ストレスの除去、軽減に対して噛み締めや咀嚼が重要な役割を果たす事は、これまでの研究により解明されつつある。その中でも、ガム咀嚼はその有用性および簡便性から多くの支持を受けているが、その神経生理学的なメカニズムに関しては不明な点が多い。そこで、ガム咀嚼のストレス軽減に対する効果、ストレスの認知、制御に中心的な役割を示す前頭前野の脳活動を含めNIRSやMRI等を用いて多方面に検討する事により、ガム咀嚼のストレスへの効果を科学的に明確にする事ができ、アスリートの競技・記録へのストレスを含め、現在のストレス社会におけるストレスの軽減に寄与出来るものと思われる。

基盤研究(C) 服部 雅之 講師

#### 「歯科用高耐食チタン合金の多用途応用への試み」

チタンおよびチタン合金は生体適合性に優れ、適度な機械的性質を有することから、歯科インプラントや金属義歯床に応用されている。しかし、生体環境下において腐食が原因と考えられるチタン製インプラントの破折や義歯洗浄剤・齶蝕予防剤による変色が報告されている。これらを克服すべく、本研究課題では、かねてより開発してきたクロム含有高耐食チタン合金を多用途歯科用合金として、歯科臨床への応用を検討するものである。したがって歯科鑄造用に限らず、CAD/CAM用合金や陶材焼付鑄造冠、レジン前装冠としての可能性を模索することによって、現在の歯科用チタン合金が抱えている問題点を克服すると共に、あらたな歯科用多目的合金として提案することである。

基盤研究(C) 見明 康雄 准教授

#### 「単結晶ナノチューブアパタイトの可能性」

ハイドロキシアパタイトは多方面で利用されており、医学的な利用も多くみられるが、板状ないし針状の多結晶構造をとるものが多い。この研究で作製および応用を考えているものはチューブ状のアパタイト単結晶構造物で、c面の直径がナノメートルサイズのアパタイトの単結晶中央に空洞を形成したものである。このような構造物はこれまで人工的に作られたことはなく、その性質や他の物質との反応性は全く不明である。医療関係の利用法としては、従来のリン酸カルシウム系製剤と類似した利用法が考えられるが、反応性に違いがあると考えている。また、ハイドロキシアパタイトは生体物質であり、体内に残存しても為害作用は少ないので、薬剤デリバリーシステムとしての利用も考えられる。

基盤研究(C) 井出 吉信 教授

#### 「骨梁構造における荷重伝達を考慮したインプラント偶発症抑止シミュレーション」

マイクロCTの高い撮像分解能でとらえた顎骨内部構造について、骨形態計測と構造解析を行い、インプラント埋入時において注意すべき解剖学的構造の三次元的位置関係をデータベース化する。また、骨梁構造の異方性がインプラント周囲骨に



与える影響を解明し、骨梁構造を考慮したインプラント埋入危険領域を設定する。インプラントに必要な解剖学的構造物の位置関係を提示し、生体力学的要因を正確に考慮したインプラント埋入を行うことが可能になることで、負担荷重をはじめとしたインプラント合併症の発生を予測し、回避することができるようにすると期待される。

基盤研究(C) 齋藤 淳 講師

#### 「歯周病原菌の複数菌感染による宿主細胞侵入機構の解析と新規制御法の検討」

本研究は複数菌感染の視点から、歯周病原性菌の宿主細胞への侵入機構および侵入が歯周炎、動脈硬化症の発症・進展に及ぼす影響を明らかにすることを目的としている。具体的には、より臨床の状況に近い複数菌感染の条件下で、*Porphyromonas gingivalis*を中心とした歯周病原性菌がどのような相互作用のもとで、ヒト歯肉上皮細胞、血管内皮細胞へ侵入するのかを解析する。近年、歯周炎の動脈硬化症への関与が示唆されており、歯周病原性菌が菌血症により全身循環を経て血管内皮に障害を与える機序の一つとして、内皮細胞への侵入が挙げられる。*P. gingivalis*は様々な宿主細胞に侵入し、巧みに免疫応答を逃れることにより、病原性を継続的に発揮している。歯周病原性菌の宿主侵入が歯周炎、動脈硬化症の発症・進展に果たす役割を明らかにし、その制御法を検討していきたい。

基盤研究(C) 水口 清 教授

#### 「DNA多型による法学的個人識別精度の確実な進展を目指して」

現在のDNA多型による個人識別は常染色体およびY染色体の複数のマイクロサテライトを検査するキットが一般的に使用され、一部ではミトコンドリアDNAの検査が状況により利用されている。これらは条件の良いDNAに対して一定の結論を出すことができるが、条件の悪い高度変性資料の検査では重要な場面で限界がでてくる。本研究は法医学の個人識別に多い高度変性資料のDNA検査で、この限界を打破するために、mtDNA多型、Y染色体多型、X染色体多型それぞれの特徴を引き出すことにより、現状の識別レベルを確実に一歩前進させようとする研究であ

る。本研究を進めることで、法医学の臨床におけるDNA検査可能な対象が大きく広がる。

若手研究(B) 山口 剛史 助教

#### 「周辺視野の光学特性の解析と臨床応用」

我々は周辺視野における点像強度分布を直接測定する系を立ち上げ、正常眼・眼内レンズ眼での周辺視野光学特性データを取得することを可能にした。ヒトその他の生物における周辺視野解析から生物における水晶体の存在意義について本装置を使い解析するとともに、周辺視光学特性と近視進行の関連についての研究や、産学共同で周辺網膜像に優れた眼内レンズの開発に寄与したい。日本一の角膜移植件数を誇る市川病院で角膜疾患における周辺視網膜像のデータ取得を行っていく予定である。

若手研究(B) 山田 将博 助教

#### 「抗酸化アミノ酸誘導体によるベータ型リン酸三カルシウム骨補填材の生体親和性の向上」

生体材料の細胞親和性の向上は埋入部位の創傷治癒促進につながる。ベータ型リン酸三カルシウム顆粒( $\beta$ -TCP)は生体吸収性人工合成骨補填材として注目されている。しかし、 $\beta$ -TCP顆粒の骨親和性は十分に証明されておらず、酸化ストレスと関連して細胞に有害反応を引き起こす可能性が示されている。近年、研究代表者らは抗酸化アミノ酸誘導であるN-アセチルシステイン(NAC)の応用により、酸化ストレスに関連した細胞有害性を発揮する生体材料の解毒に成功した。そこで、今回、NAC応用による $\beta$ -TCP骨補填材の骨芽細胞に対する親和性向上を試み、材料上の生存細胞数の増加、骨芽細胞表現型発現レベルの上昇という良好な結果を得た。本研究結果により、整形外科および歯科領域の骨再建術の成功率の増加、治癒期間の短縮が期待される。

若手研究(B) 田坂 彰規 助教

#### 「咀嚼能率がストレス緩和に影響を及ぼすか」

近年、全身機能に及ぼす咀嚼の重要性に関する報告が注目されており、その中で「咀嚼によるストレス緩和」について様々な研究がなされてきた。これまで、我々は咀嚼時の運動条件(速度、力、回数)を変化させることによるストレス緩和の影

響を明らかにしてきた。これまでの研究成果を発展させるために、本研究では個人が有する咀嚼能力の指標の1つである咀嚼能率について着目し、咀嚼能率の違いがストレス緩和効果に及ぼす影響を明らかにする。ストレス緩和に有効な咀嚼能力を検討することは、臨床において補綴治療効果の客観的指標の1つとなり、患者のQOL向上に大きく貢献できるものと考えている。

若手研究(B) 松永 智 講師

#### 「コーンビームCT画像を用いたインプラント周囲骨梁のマイクロメカニクス」

歯科用コーンビームCTイメージベースの応力計算を行い、マイクロCTと比較することで、撮像分解能が解析精度に与える影響を明らかにする。同時に、インプラント周囲顎骨における応力状態の定量的評価を行うことで、内部骨梁構造に発生するメカニカルストレスを正確に予測し、生体力学的観点から埋入支援を行うシミュレータを目指す。マイクロメートルオーダーでの解析が可能となることで、臨床応用上必須の高精度・高信頼性解析の実現が期待される。

若手研究(B) 山本 信治 助教

#### 「口腔癌のマッピングアレイを用いた全染色体上の構造異常と新規癌抑制遺伝子の解明」

癌治療において再発・転移の有無は重要な診断情報であり、その後の治療方針に大きく影響する。我々はこれまで、循環血清中の多くのfree DNA、中でも、腫瘍細胞のfree DNAの特定に成功し、再発・転移の早期診断や治療の効果判定に役立っている。現在までに行われた口腔扁平上皮癌におけるヘテロ接合性消失(LOH)に関する研究から、多くのマイクロサテライト領域が判明している。このLOHの局在情報を癌細胞の指紋と考え、循環血清中の腫瘍free DNAの検出を行う研究を可能とした。さらに、口腔扁平上皮癌患者から抽出したDNAを用い、DNAマッピングアレイ解析を用いた全ゲノム上のLOHとコピー数異常の有無を検索し、その結果、数百~数千の口腔癌に関与する新規未知癌抑制遺伝子座位が一度に同定することを可能とした。

そこで、本研究はさらに発展させ、口腔扁平上皮癌患者から抽出したDNAならびにmRNAを用

い、全ゲノム上のゲノムコピー数異常の解析ならびに同座位に存在する転移関連遺伝子候補をリストアップし、候補遺伝子のmRNA発現状況を定量的Real-time PCR法により検証する。この新探索方法が確実に実績が上げられ、体内に潜む再発転移細胞の早期発見に結びつけられれば、世界初の口腔癌の再発・転移関連遺伝子の同定に成功し、口腔癌の診断・治療の向上に大きく貢献することが期待される。

若手研究(B) 渡邊 章 助教

#### 「口唇裂・口蓋裂の候補遺伝子のダイレクトシーケンスによる解析」

口唇裂・口蓋裂を単一遺伝子病としての変異解析、多因子遺伝子病としてのSNPを用いてのcase-control study、TDTは、いまだ立ち後れている。本研究は、明らかにされていない日本人口唇裂・口蓋裂患者の原因遺伝子を解明することを目的とする。さらに、単一遺伝子病、多因子遺伝子病かを解明し、機能解析からも発症原因、シグナルを網羅的に解析することによってシグナル経路、メカニズム、関連重要遺伝子の一部が解明される。今後、様々な結果が得られれば、近い将来ではないと思われるが、診断、原因の追及から疾病の軽減などの治療、さらに予防までにつながる研究となることを期待している。

若手研究(B) 稲垣 覚 助教

#### 「歯周炎局所における歯周病原菌の歯肉上皮細胞への付着、侵入メカニズムの解析」

重度歯周炎において歯周治療を施したにもかかわらずポケットの再発や歯周病原菌の再検出が見られることがしばしばある。その原因として考えられるのは、歯肉上皮側の細菌バイオフィームと、歯周病原菌のポケット上皮細胞への侵入が挙げられる。歯周病原菌が歯周ポケット上皮に付着し、さらに上皮細胞内に侵入すると、治療による除菌は困難になるばかりではなく、消毒液による作用を受けない。このため、歯周病原菌の完全な排除には歯肉上皮細胞へ侵入した歯周病原菌を考慮に入れる必要がある。本研究では、歯周病原菌の上皮細胞への付着、侵入と、それに関与するメカニズムを分子生物学的手法で解析する。また、動物実験レベルでのワクチン効果も確認する予定である。

## ■平成22年度科学研究費補助金研究者別交付一覧（本学研究代表者分）

平成22年9月1日現在

研究種目	研究代表者氏名	22年度 新規 採択者	交付決定額 単位（千円）	研究課題
			直接経費	
基盤研究（B）一般	眞木 吉信 教授		2,500	特定および要介護高齢者の口腔環境・機能のアセスメントと改善・向上プログラムの構築
基盤研究（B）一般	新谷 誠康 教授	○	8,400	遺伝性エナメル質形成不全症の原因探査と遺伝子診断法の企画
基盤研究（C）一般	松坂 賢一 准教授		600	口腔エイジング解析によるリジュヴェネーション
基盤研究（C）一般	宮内 潤 教授		1,000	ダウン症児における一過性骨髄増殖症の自然治癒機構に関する分子・細胞生物学的研究
基盤研究（C）一般	田中 一郎 准教授		900	ビデオ画像の3次元的表情解析による顔表情運動障害の診断・治療支援システムの解析
基盤研究（C）一般	加藤 哲男 准教授		800	歯周病原性バイオフィーム形成因子の分子生物学的解析と機能性タンパク質による抑制
基盤研究（C）一般	村松 敬 講師		600	マイクロアレイで検出された歯牙形成遺伝子候補は本当に歯牙形成に関与しているか？
基盤研究（C）一般	橋本 貞充 准教授		600	唾液腺の傍細胞経路による唾液分泌調節機能の解明とその活性化
基盤研究（C）一般	渋谷 義幸 講師		600	歯牙発生過程における近遠心頬側決定因子：歯胚 Ca 信号の非対称性分布と制御機構
基盤研究（C）一般	櫻井 薫 教授		400	咀嚼時の咬合力とストレス緩和効果
基盤研究（C）一般	三宅菜穂子 助教		500	歯冠用硬質レジンへの唾液タンパクの吸着をコントロールできるのか
基盤研究（C）一般	武田 友孝 准教授		500	咬合干渉が情動反応に及ぼす影響
基盤研究（C）一般	矢島 安朝 教授		600	インプラント周囲口腔粘膜は癌化しやすい！
基盤研究（C）一般	櫻井 学 講師		1,200	鎮静・催眠からの回復促進効果に対するアデノシン受容体の関与
基盤研究（C）一般	渡邊 裕 講師		1,100	ミラーニューロンは嚥下障害を改善するか：マルチモダリティ脳計測による解明
基盤研究（C）一般	津坂 憲政 准教授		500	TCR ζ鎖mRNA3' UTR異常に伴う全身性エリテマトーデス発症機序
基盤研究（C）一般	君塚 隆太 講師		1,200	歯周病原性菌線毛のアミロイド線維形成とバイオフィーム形成との関連性
基盤研究（C）一般	石原 和幸 教授		1,300	歯周病原性細菌コンソーシア形成機構の解析
基盤研究（C）一般	柳澤光一郎 助教		600	ポリアミド系樹脂製義歯の有用性についての検討
基盤研究（C）一般	松久保 隆 教授		1,100	学齢期における生活習慣病リスクと咬合咀嚼機能の関連性に関するコホート研究
基盤研究（C）一般	杉原 直樹 准教授		500	根面う蝕のコホート研究に基づいたう蝕予防ガイドラインの作成
基盤研究（C）一般	芹田 良平 准教授	○	2,100	高濃度二酸化炭素暴露による付加価値赤血球が敗血症ショックに及ぼす影響
基盤研究（C）一般	兼子 智 講師	○	2,300	精子品質管理による不妊治療の安全性向上・精子頭部空胞とDNA損傷の関連性解析
基盤研究（C）一般	佐竹 良之 講師	○	1,800	培養口腔粘膜上皮シートと血管新生
基盤研究（C）一般	石上 恵一 教授	○	600	ガム咀嚼はストレスを緩和する
基盤研究（C）一般	服部 雅之 講師	○	1,100	歯科用高耐食チタン合金の多用途応用への試み
基盤研究（C）一般	見明 康雄 准教授	○	2,000	単結晶ナノチューブアパタイトの可能性
基盤研究（C）一般	井出 吉信 教授	○	1,800	骨梁構造における荷重伝達を考慮したインプラント偶発症防止シミュレーション
基盤研究（C）一般	齋藤 淳 講師	○	600	歯周病原菌の複数菌感染による宿主細胞侵入機構の解析と新規制御法の検討
基盤研究（C）一般	水口 清 教授	○	1,400	DNA多型による法菌学的個人識別精度の確実な進展を目指して
挑戦的萌芽研究	小田 豊 教授		700	歯科用CAD/CAMから三次元造形への展開
研究活動スタート支援	岩沼 治 助教		700	骨髄SP細胞の筋線維分化過程解明へ向けた基礎研究プロジェクト
若手研究（B）	武本 真治 講師		900	口腔内をシミュレートしたチタン合金の耐食性評価方法の確立

研究種目	研究代表者氏名	22年度 新規 採択者	交付決定額 単位 (千円)	研究課題
			直接経費	
若手研究 (B)	柴山 和子 助教		700	新規なバイオフィルム形成遺伝子から探る口腔カンジダ症の発症・進行メカニズム
若手研究 (B)	国分 栄仁 助教		600	接着タンパク制御による新たなインプラント材料の解明
若手研究 (B)	村上 聡 助教		1,100	歯科用レーザーによる口腔領域の関業系細胞活性化療法の確立
若手研究 (B)	伊藤 太一 講師		800	骨粗鬆症と歯周病およびインプラント周囲炎との関連性
若手研究 (B)	國分 克寿 助教		1,400	ナノ材料・人工タンパク質を利用した即時荷重インプラントの最適化
若手研究 (B)	恩田 健志 助教		900	口腔扁平上皮癌における新規転移メカニズムの解明
若手研究 (B)	櫻井 敦朗 助教		1,300	小児の口腔アレルギー疾患に関与する口腔レンサ球菌と自然免疫応答の破綻
若手研究 (B)	山口 剛史 助教	○	1,200	周辺視野の光学特性の解析と臨床応用
若手研究 (B)	山田 将博 助教	○	1,000	抗酸化アミノ酸誘導体によるベータ型リン酸三カルシウム骨補填材の生体親和性の向上
若手研究 (B)	田坂 彰規 助教	○	700	咀嚼能率がストレス緩和に影響を及ぼすか？
若手研究 (B)	松永 智 講師	○	1,500	コーンビーム CT 画像を用いたインプラント周囲骨梁のマイクロメカニクス
若手研究 (B)	山本 信治 助教	○	1,600	口腔癌のマッピングアレイを用いた全染色体上の構造異常と新規癌抑制遺伝子の解明
若手研究 (B)	渡邊 章 助教	○	1,400	口唇裂・口蓋裂の候補遺伝子のダイレクトシークエンスによる解析
若手研究 (B)	稲垣 覚 助教	○	500	歯周炎局所における歯周病原菌の肉肉上皮細胞への付着、侵入メカニズムの解析

### ■平成22年度科学研究費補助金研究者別交付一覧（本学研究分担者分）

研究種目	研究代表者氏名	本学研究分担者氏名	22年度 新規 採択者	交付決定額 単位 (千円)	研究課題
				直接経費	
基盤研究 (A) 一般	平井 敏博 教授 (北海道医療大学)	櫻井 薫 教授		650	症型分類(治療難易度)に基づく補綴治療の診療ガイドラインの策定と妥当性の検証
基盤研究 (B) 一般	千葉 由美 准教授 (千葉県立保健医療大学)	石田 瞭 講師		50	広域における摂食・嚥下ケアの医療安全および質保証のための統合的管理システムの開発
基盤研究 (C) 一般	細矢由美子 教授 (長崎大学)	井上 孝 教授		100	菌質を変色させない乳歯齲蝕進行抑制法としてのフッ化ジアミンシリケートの有効性
基盤研究 (C) 一般	河野 葉子 准教授 (昭和大学)	村松 敬 講師	○	50	良性腫瘍は悪性腫瘍に形質転換するか?唾液腺腫瘍における形態学的・分子病理学的解析
基盤研究 (C) 一般	山本 仁 講師 (日本大学松戸歯学部)	村松 敬 講師		100	歯根の形態形成 特に多根化を発現する因子の分子形態学的解析
基盤研究 (C) 一般	丸山 史人 准教授 (東京医科歯科大学)	桜井 敦朗 助教	○	140	高解像度細菌叢解析による口腔微生物環境の恒常性維持メカニズムの解明
基盤研究 (C) 一般	富岡 俊也 助教 (東京大学医学部附属病院)	松浦 信幸 助教	○	250	TrkA 受容体欠損疾患における侵害刺激への生体認知機構の解明
基盤研究 (C) 一般	富岡 俊也 助教 (東京大学医学部附属病院)	澁川 義幸 講師	○	250	TrkA 受容体欠損疾患における侵害刺激への生体認知機構の解明
基盤研究 (C) 一般	富岡 俊也 助教 (東京大学医学部附属病院)	君塚 隆太 講師	○	250	TrkA 受容体欠損疾患における侵害刺激への生体認知機構の解明
基盤研究 (C) 一般	富岡 俊也 助教 (東京大学医学部附属病院)	新谷 益朗 准教授	○	250	TrkA 受容体欠損疾患における侵害刺激への生体認知機構の解明
基盤研究 (C) 一般	木村 秀樹 准教授 (福井大学医学部)	菅谷 健 客員講師		50	脂質転送蛋白と脂質応答性転写因子の腎線維化抑制作用の解析と新規治療薬の探索

## 人物往来

### ■国内見学者来校

千葉校舎・千葉病院

○太陽歯科衛生士専門学校(学生77名、教員3名)

平成22年7月12日(月)微生物学実習

○大宮歯科衛生士専門学校(学生39名、教員3名)

平成22年7月15日(木)解剖学教室、病院見学

○国際医療福祉専門学校(学生46名、教員3名)

平成22年8月2日(月)解剖実習室、標本室見学

- つくば歯科衛生・マイスター専門学校、取手歯科衛生専門学校(学生36名、教員4名)  
平成22年8月31日(火)解剖実習、病院見学
- 東京歯科衛生専門学校(学生60名)  
平成22年9月2日(木)解剖学教室、病院見学
- 自衛隊中央病院高等看護学院(学生87名、教員3名)  
平成22年9月14日(火)解剖学教室、標本室見学
- 茨城歯科専門学校(学生27名、教員2名)  
平成22年9月30日(木)解剖学教室、病院見学

### 市川総合病院

- 佐伯栄養専門学校  
平成22年8月21日(土) 厨房、臨床検査科病理室見学(学生6名)  
平成22年8月28日(土) 厨房、臨床検査科病理室見学(学生6名)
- 成田赤十字病院(職員4名)  
平成22年8月12日(木) 病院見学
- 埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科(学生2名)  
平成22年8月27日(金) 病院見学
- 東京医科歯科大学医学部(学生2名)  
平成22年9月14日(火)、15日(水) インターンシップ

### ■海外出張

- 遠藤隆行講師(生理)  
7th Forum of European Neuroscienceで発表のため、7月2日(金)から9日(金)まで、オランダ・アムステルダムへ出張。
- 山田将博助教(有床義歯補綴)  
UCLA School of Dentistryの研究会議、および研究発表会へ参加のため、7月6日(火)から12日(月)まで、アメリカ・ロサンゼルスへ出張。
- 丸茂 健教授(市病・泌尿器科)  
The 5th JAPAN-ASEAN Conference on Men's Health & Agingに参加、および発表のため、7月8日(木)から12日(月)まで、マレーシア・コタキナバルへ出張。
- 小田 豊教授、武本真治講師(歯科理工)  
第88回IADR (International Association for Dental Research)に参加、および発表のため、平成22年7月12日(月)から19日(月)まで、スペイン・バルセロナへ出張。
- 村松 敬講師(病理)

- 第88回IADRに参加、および発表のため、平成22年7月12日(月)から19日(月)まで、スペイン・バルセロナへ出張。
- 三輪恒幸大学院生、木村 裕大学院生、松岡海地大学院生(臨床検査)  
第88回IADRに参加、および発表のため、平成22年7月12日(月)から19日(月)まで、スペイン・バルセロナへ出張。
- 半田俊之講師(水病・麻酔科)  
第88回IADRに参加、および発表のため、平成22年7月12日(月)から20日(火)まで、スペイン・バルセロナへ出張。
- 金子 譲学長(大学)  
第88回IADRに参加のため、平成22年7月13日(火)から19日(月)まで、スペイン・バルセロナへ出張。
- 田崎雅和教授、澁川義幸講師、津村麻記助手、市川秀樹大学院生(生理)  
第88回IADRに参加、および発表のため、田崎教授は平成22年7月14日(水)から22日(木)まで、澁川講師、津村助手、市川大学院生は平成22年7月13日(火)から20日(火)まで、スペイン・バルセロナへ出張。
- 佐藤 裕准教授(生化)  
第88回IADRに参加、および発表のため、平成22年7月13日(火)から19日(月)まで、スペイン・バルセロナへ出張。
- 石原和幸教授、君塚隆太講師、稲垣 覚助教(微生物)  
第88回IADRに参加、および発表のため、平成22年7月13日(火)から19日(月)まで、スペイン・バルセロナへ出張。
- 四宮敬史助教、塚越絵里大学院生(薬理)  
第88回IADRに参加、および発表のため、平成22年7月13日(火)から20日(火)まで、スペイン・バルセロナへ出張。
- 山田 了教授、渋川義宏准教授、太田幹夫講師、勢島 典レジデント、石塚洋一大学院生(歯周病)  
第88回IADRに参加、および発表のため、平成22年7月13日(火)から、山田教授、太田講師、勢島レジデントは19日(月)まで、渋川准教授、石塚大学院生は18日(日)まで、スペイン・バルセロナへ出張。
- 櫻井 薫教授、上田貴之准教授、岡田千奈助教、

- 山田将博助教、竜 正大助教、高野智史大学院生、添田亮平大学院生(有床義歯補綴)  
第88回IADRに参加、および発表のため、平成22年7月13日(火)から19日(月)まで、スペイン・バルセロナへ出張。
- 湯村潤子助教、西澤秀哉大学院生、佐塚祥一郎大学院生(歯科麻酔)  
第88回IADRに参加、および発表のため、平成22年7月13日(火)から19日(月)まで、スペイン・バルセロナへ出張。
- 茂木悦子准教授、坂本輝雄講師、野村真弓助教、西井 康助教、石井武展助教(歯科矯正)  
第88回IADRに参加、および発表のため、平成22年7月13日(火)から、茂木准教授、野村助教、西井助教、石井助教は19日(月)まで、坂本講師は21日(水)まで、スペイン・バルセロナへ出張。
- 佐野 司教授(歯科放射線・国際渉外部)  
第88回IADRに参加、およびRochester大学との打ち合わせのため、平成22年7月13日(火)から19日(月)まで、スペイン・バルセロナへ出張。
- 齋藤 淳講師(水病・保存)  
第88回IADRに参加、および発表のため、平成22年7月13日(火)から19日(月)まで、スペイン・バルセロナへ出張。
- 加藤哲男准教授(化学)  
第88回IADRに参加、および発表のため、平成22年7月14日(水)から19日(月)まで、スペイン・バルセロナへ出張。
- 白石 建教授、青山龍馬助教(市病・整形外科)  
手術指導のため、平成22年7月14日(水)から19日(月)まで、中国・河南省へ出張。
- 篠崎尚史講師・センター長(市病・角膜センター)  
ソウル大学医学部にて講演、および延世大学にてSTEMセルミーティングに出席のため、平成22年7月15日(木)から17日(土)まで、韓国・ソウルへ出張。
- 榛村真智子助教(市病・眼科)  
International Society for Eye Researchに参加、および発表のため、平成22年7月16日(金)から25日(日)まで、カナダ・モントリオールへ出張。
- 武井 泉教授(市病・内科、糖尿病・内分泌センター)  
国際臨床化学会HbA1c標準化委員会に出席のため、平成22年7月23日(金)から29日(木)まで、アメリカ・アナハイムへ出張。
- 佐藤 亨教授(クラウンブリッジ補綴)  
The American Academy of Esthetic Dentistry, 35th Annual Meetingに参加のため、平成22年8月3日(火)から8日(日)まで、アメリカ・ハワイへ出張。
- 阿部伸一准教授(解剖)  
New York UniversityのInternational Programで講演、および実習を行うため、平成22年8月4日(水)から7日(土)まで、中国・青島へ出張。
- 篠崎尚史講師・センター長(市病・角膜センター)  
国際移植学会へ参加のため、平成22年8月14日(土)から21日(土)まで、カナダ・バンクーバーへ出張。
- 佐藤 亨教授(学生部長)、中村光博教授(学生部副部長)、前田健一郎事務員(学生課)  
延世大学校歯科大学との学生交流引率のため、平成22年8月16日(月)から20日(金)まで、韓国・ソウルへ出張。
- 下野正基教授、村松 敬講師(病理)  
15th International Congress of Oral Pathology and Medicineに参加、および発表のため、平成22年8月16日(月)から20日(金)まで、韓国・ソウルへ出張。
- 大久保真衣助教(歯科放射線)  
20th Congress of the International Association for Disability and Oral Healthで発表のため、平成22年8月25日(水)から30日(月)まで、ベルギー・ヘントへ出張。
- 井上 孝教授(臨床検査)  
FDIサルバドル・ダ・バイア大会に日本歯科医師会学術員として、またFDI Education Committee Memberとして大会、会議に出席のため、平成22年8月27日(金)から、9月8日(水)まで、ブラジル・サルバドルへ出張。
- 三輪恒幸大学院生(臨床検査)  
FDI Annual World Dental Congress in Salvador da Bahiaで発表のため、平成22年8月30日(月)から9月8日(水)まで、ブラジル・サルバドルへ出張。
- 坂本輝雄講師(歯科矯正)  
Taiwan Orthodontic Society 2010 Annual Sessionで発表のため、平成22年9月2日(木)から6日(月)まで、台湾・台北へ出張。
- ビッセン弘子教授(水病・眼科)

European Society of Cataract & Refractive Surgeonsに参加のため、平成22年9月3日(金)から8日(水)まで、フランス・パリへ出張。

- 金子 譲学長、櫻井 学講師(歯科麻酔)  
金子学長はPediatric Sedation Outside of the Operating Room Conferenceにて講演のため、櫻井講師は学長随行として、平成22年9月9日(木)から14日(火)まで、アメリカ・サンフランシスコへ出張。

- 榛村真智子助教(市病・眼科)  
Asia-Pacific Academy of Ophthalmologyに参加、および発表のため、平成22年9月15日(水)から20日(月)まで、中国・北京へ出張。

- 橋本貞充准教授(病理)  
第21回International Symposium on Morphological Sciencesで発表、およびミラノ大学薬理学研究所にて研究打合せのため、平成22年9月16日(木)から25日(土)まで、イタリア・タオルミナ、およびミラノへ出張。

- 上田貴之准教授(有床義歯補綴)  
ベルン大学歯学部補綴科にて共同研究、および第34回ヨーロッパ補綴学会で発表のため、平成22年9月17日(金)から28日(火)まで、スイス・ベルン、コンゴ共和国・プリシュティナへ出張。

- ビッセン弘子教授(水病・眼科)  
The 25th Asia Pacific Academy of Ophthalmology Congress-A Joint Meeting of APAO/AAOに参加のため、平成22年9月17日(金)から20日(月)まで、中国・北京へ出張。

- 中原 賢大学院生(解剖)  
ベルン大学施設見学、および研究打ち合わせのため、平成22年9月19日(日)から27日(月)まで、スイス・ベルンへ出張。

- 島崎 潤教授、溜 裕美子レジデント(市病・眼科)  
The Tear Film & Ocular Surface Conferenceに出席のため、島崎教授は平成22年9月20日

(月)から30日(木)まで、溜レジデントは9月22日(水)から28日(火)まで、イタリア・フローレンスへ出張。

- 大久保真衣助教(歯科放射線)  
がんプロフェッショナル・インテンシブコースにおいて、フロリダ大学で海外視察を行い、がん医療における口腔ケア、摂食・嚥下のリハビリテーションの指導を習得するため、平成22年9月21日(火)から10月18日(月)まで、アメリカ・フロリダへ出張。

- 佐々木悟郎講師(市病・小児科)  
ヨーロッパ小児内分泌学会に参加、および発表のため、平成22年9月21日(火)から26日(日)まで、チェコ共和国・プラハへ出張。

- 竜 正大大学院生(有床義歯補綴)  
第34回ヨーロッパ補綴学会に参加、および発表のため、平成22年9月21日(火)から28日(火)まで、コンゴ共和国・プリシュティナへ出張。

- 阿部伸一教授、松永 智講師(解剖)  
ハワイ大学医学部にて講演、および実習、研究打ち合わせを行うため、平成22年9月23日(木)から27日(月)まで、アメリカ・ハワイへ出張。

- 小田 豊教授(歯科理工)  
第46回ISO/TC106リオデジャネイロ会議に出席のため、平成22年9月24日(金)から10月4日(月)まで、ブラジル・リオデジャネイロへ出張。

- 新谷誠康教授、今井裕樹講師、山下治人大学院生(小児歯科)  
同済大学児童口腔医学研究所との共同研究のため、新谷教授は平成22年9月28日(火)から、今井講師、山下大学院生は9月26日(日)から、それぞれ10月1日(金)まで、中国・上海へ出張。

- 丸茂 健教授(市病・泌尿器科)  
国際性機能学会第14回世界大会に参加、および発表のため、平成22年9月26日(日)から9月30日(木)まで、韓国・ソウルへ出張。

## 大学日誌

### 平成22年7月

- 1(木) 第5回補助金管理運営会議  
平成23年度臨床研修歯科医募集病院説明会(本学対象)  
省エネルギーの日  
防災安全自主点検日

- 1(木) ICTランチタイムセミナー(市病)  
感染制御委員会(市病)  
治験審査委員会・倫理委員会(市病)
- 2(金) 大学院運営協議会
- 3(土) 第5回東京歯科大学公開講演会  
臨床研修歯科医 OSCE(水病)

- |   |   |
|---|---|
| <p>5(月) プログラム責任者・副責任者会議<br/>教育WS「臨床実習」作業部会<br/>薬事委員会(市病)</p> <p>6(火) 臨床教授連絡会<br/>講座主任教授会<br/>人事委員会<br/>第5回不正防止推進室打合せ<br/>「医学情報の収集と管理方法」講習会<br/>教育WS「基礎科目」作業部会</p> <p>7(水) 4年生HBワクチン接種(1回目)<br/>リスクマネジメント部会<br/>ICT会議<br/>基礎教授連絡会<br/>千葉校舎課長会<br/>大学院運営委員会<br/>大学院研究科委員会<br/>臨床教育委員会作業部会<br/>口腔健康臨床科学講座会(水病)</p> <p>8(木) 第42回全日本歯科学生総合体育大会結団式<br/>医療安全研修会<br/>科学研究費使用ルール説明会<br/>医療安全管理委員会(市病)<br/>手術室運営委員会(市病)</p> <p>9(金) ICT委員会(市病)<br/>感染予防対策チーム委員会(水病)</p> <p>11(日) 1～4年生夏期休暇(～8/31)<br/>入試ガイダンス[於:水道橋校舎]</p> <p>12(月) 病院運営会議<br/>個人情報保護委員会<br/>医療安全管理委員会<br/>感染予防対策委員会(ICC)<br/>臨床教育委員会<br/>医局長会<br/>図書委員会</p> <p>13(火) 粗大ゴミの廃棄(～15日)<br/>歯科衛生士専門学校臨床実習委員会</p> <p>14(水) 歯科衛生士専門学校1年生夏期休暇(～8/31)<br/>看護部運営会議(市病)<br/>救急委員会(市病)<br/>業務改善委員会(市病)<br/>リスクマネジメント部会(水病)<br/>薬事委員会(水病)<br/>医療安全管理委員会(水病)<br/>医療機器安全管理委員会(水病)<br/>感染予防対策委員会(水病)<br/>個人情報保護委員会(水病)<br/>科長会(水病)</p> <p>15(木) 業務連絡会<br/>高度・先進医療委員会<br/>環境清掃日<br/>危険物・危険薬品廃棄処理日</p> <p>17(土) 歯科衛生士専門学校2年生夏期休暇(～8/31)</p> <p>19(月) 歯科衛生士専門学校サマースクール[於:水道橋校舎]</p> | <p>20(火) 第309回大学院セミナー<br/>機器等安全自主点検日<br/>褥瘡対策委員会(市病)</p> <p>21(水) 蔵書点検(～23日)<br/>学生部(課)事務連絡会<br/>教育WS「基礎科目」作業部会<br/>CPC(市病)</p> <p>22(木) 医療連携講演会<br/>部長会(市病)</p> <p>23(金) クリニカルパス委員会(市病)<br/>災害対策実施部会(市病)</p> <p>24(土) 歯科衛生士専門学校3年生夏期休暇(～8/30)<br/>平成23年度第1回看護師採用選考試験(市病)</p> <p>26(月) 医療連携委員会<br/>電子カルテシステム運用管理委員会(市病)<br/>NST会議(市病)<br/>手術室管理委員会(水病)</p> <p>27(火) データ管理者会議<br/>カルテ整備委員会<br/>診療記録管理委員会<br/>病院連絡協議会・診療録管理委員会(水病)</p> <p>28(水) 教育ワークショップ(報告会)<br/>看護部運営会議(市病)</p> <p>29(木) 歯科衛生士専門学校説明会<br/>第1回サマーインターンシップ(～30日)(市病)<br/>第1回病院見学会(市病)<br/>管理診療委員会(市病)</p> <p>31(土) 入試ガイダンス[於:水道橋校舎]<br/>平成23年度第2回看護師採用選考試験(市病)</p> |
|---|---|
- 平成22年8月**
- |  |
|--|
| 1(日) 第42回全日本歯科学生総合体育大会開会式(～11日) [事務主管:徳島大学歯学部]   |
| 2(月) プログラム責任者・副責任者会議   |
| 4(水) リスクマネジメント部会<br>ICT会議  |
| 5(木) 第2回病院見学会(市病)<br>第2回サマーインターンシップ(～6日)(市病)<br>感染制御委員会(市病)                                    |
| 7(土) 平成23年度第3回看護師採用選考試験(市病)<br>臨床研修歯科医説明会(他大学出身者対象)(水病)<br>納谷廣美先生(明治大学学長)による講演・水道橋移転計画の説明会(法人) |
| 9(月) 病院運営会議<br>個人情報保護委員会<br>医療安全管理委員会<br>感染予防対策委員会(ICC)<br>医局長会                                |
| 11(水) リスクマネジメント部会(水病)  |
| 13(金) ICT委員会(市病)   |
| 16(月) 延世大学校歯科大学との学生交流プログラム(～20日)(訪韓)   |



16(月)	危険物・危険薬品廃棄処理日	8(水)	防災訓練(市病)
17(火)	褥瘡対策委員会(市病)		業務改善委員会(市病)
19(木)	業務連絡会 高度・先進医療委員会 歯科衛生士専門学校説明会 第3回病院見学会(市病) 第3回サマーインターンシップ(~20日)(市病) 第37回APDSA(アジア太平洋歯科学学生会議) 日本大会(水病)		救急委員会(市病) 文献検索講習会(市病) ICU運営委員会(市病) リスクマネージメント部会(水病) 薬事委員会(水病) 臨床検査室委員会(水病) 医薬品安全管理委員会(水病)
21(土)	平成23年度第4回看護師採用選考試験	9(木)	医療安全研修会 医療安全管理委員会(市病) 手術室運営委員会(市病)
23(月)	医療連携委員会	10(金)	大学院運営協議会 第310回大学院セミナー ICT委員会(市病) 感染予防対策チーム委員会(水病)
26(木)	第4回病院見学会(市病) 第4回サマーインターンシップ(~27日)(市病)	13(月)	1~4年生前期授業終了 病院運営会議 個人情報保護委員会 医療安全管理委員会 感染予防対策委員会(ICC) 臨床教育委員会 医局長会 図書委員会 医療監視(市病) 地域連携委員会(市病) NST会議(市病)
27(金)	災害対策実施部会(市病)		
28(土)	入試ガイダンス・オープンキャンパス[於:千葉校舎] 平成23年度第5回看護師採用選考試験(市病)	14(火)	第311回大学院セミナー 千葉校舎課長会 歯科衛生士専門学校1・2年生前期授業終了 褥瘡対策委員会(市病)
30(月)	NST会議(市病) NST講習会(市病) ICTランチタイムセミナー(~31日)(市病)	15(水)	基礎教授連絡会 大学院運営委員会 大学院研究科委員会 環境清掃日 危険物・危険薬品廃棄処理日 歯科衛生士専門学校創立記念日 臨床検査運営委員会(市病)
31(火)	1~4年生夏期休暇終了	16(木)	1・3・4年生前期定期試験(~28日) 2年生前期定期試験(~27日) 業務連絡会 高度・先進医療委員会 教養科目担当者懇談会 歯科衛生士専門学校1・2年生前期試験(~29日) 歯科衛生士専門学校臨地実習指導者連絡会 部長会(市病) 医療安全管理委員会(水病) 感染予防対策委員会(水病) 個人情報保護委員会(水病) 科長会(水病)
<b>平成22年9月</b>			
1(水)	1~4年生授業再開 振替授業(火曜日分) 6年生第2回総合学力試験(~2日) リスクマネージメント部会 ICT会議 輸血療法委員会 臨床検査部運営委員会 千葉校舎課長会 防火・防災安全自主点検日 歯科衛生士専門学校1・2年生授業再開 口腔健康臨床科学講座会(水病) 移転統括部会水道橋機能部会(水病)	17(金)	歯学体成績報告会 東京都立入検査(水病)
2(木)	看護部運営会議(市病) 院内感染症予防対策委員会(市病)	18(土)	平成23年度第7回看護師採用選考試験(市病)
3(金)	教務部(課)事務連絡会		
4(土)	5年生第1回総合学力試験 平成23年度第6回看護師採用選考試験(市病)		
5(日)	平成23年度臨床研修歯科医選考		
6(月)	学生部(課)事務連絡会議 教養科目協議会 プログラム責任者・副責任者会議 総合講義検討委員会 薬事委員会(市病)		
7(火)	平成22年度第1回自己点検・評価委員会 臨床教授連絡会 全体教授会 人事委員会 歯科衛生士専門学校教員会・名誉講師称号記授与式		
8(水)	4年生HBワクチン接種 学生会合同協議会		

18(土)	午後のリサイクル(市病)	27(月)	第96回歯科医学教育セミナー
21(火)	機器等安全自主点検日 歯科衛生士専門学校臨床実習委員会		電子カルテシステム運用管理委員会(市病)
22(水)	防災訓練 看護部運営会議(市病) 病院連絡協議会・診療録管理委員会(水病)	28(火)	解剖慰霊祭[於:水道橋校舎] 薬事委員会 データ管理者会議 カルテ整備委員会 診療記録管理委員会
24(金)	歯科衛生士専門学校3年生前期試験 災害対策実施部会(市病)	29(水)	第312回大学院セミナー
25(土)	試験問題作成を中心としたカリキュラム研修 ワークショップ(~26日)[於:水道橋校舎]	30(木)	院内巡視(市病) 管理診療委員会(市病)
27(月)	褥瘡対策チーム 給食委員会 医療連携委員会		

## 平成23年度東京歯科大学大学院歯学研究科（博士課程）

### 学 生 募 集 要 項

○募集人員 歯学専攻34名（Ⅰ期・Ⅱ期の合計。なお、社会人特別選抜(若干名)Ⅰ期・Ⅱ期、口腔がん専門医養成コース(若干名)Ⅰ期・Ⅱ期を含む）

○入学願書受付期間

第Ⅰ期 平成22年10月1日(金)～平成22年11月26日(金)まで

第Ⅱ期 平成23年1月12日(水)～平成23年2月10日(木)まで

○試験科目

一 般 1) 外国語(英語)  
2) 専攻主科目試験および面接

一 般 (口腔がん専門医養成コース)  
1) 外国語(英語)  
2) 口頭試問(面接)  
3) 専攻主科目試験および面接

社会人 1) 外国語(英語)  
2) 口頭試問(面接)  
3) 専攻主科目試験および面接

※社会人選抜については、原則として基礎系講座・研究室のみを志望できる。

○選考日・選考会場

第Ⅰ期 平成22年12月4日(土) 東京歯科大学 千葉校舎

第Ⅱ期 平成23年2月19日(土) 東京歯科大学 千葉校舎

○合格者発表

第Ⅰ期 平成22年12月10日(金)正午 ホームページにて発表

第Ⅱ期 平成23年2月24日(木)正午 ホームページにて発表

○学 費

入 学 金 300,000円

授 業 料 600,000円

学 生 会 費 2,000円

施設維持費 100,000円(入学当初のみ)ただし、本学を卒業した者からは徴収しない。

**※受験資格【一般(口腔がん専門医養成コースを含む)】**

- 1) 歯科大学または大学歯学部を卒業した者。

平成18年4月以降に歯科医師免許を取得した(する)者は、原則として1年以上の歯科医師臨床研修を修了していること。

- 2) 1)と同等以上の学力があると認められた者。

**※受験資格【社会人】**

開業医、大学、研究所の勤務医・教員・研究者等として原則2年以上の経験を有し、入学後もその身分を有する者で、以下の資格を満たしている者。

- 1) 歯科大学または大学歯学部を卒業した者。

- 2) 1)と同等以上の学力があると認められた者。

## 東京歯科大学広報 編集委員

橋本貞充（委員長）

石塚順子 井上直記 上田貴之 内田篤志 王子田 啓 金安純一 狩野龍二 齋藤 淳 椎名 裕  
 新谷益朗 高橋俊之 武本 桂 中村弘明 日塔慶吉 旗手重雅 前田健一郎 百崎和浩

（平成22年9月現在）

### 編集後記

昭和63年から始まった延世大学校歯科大学との学生交流が23回目となる今夏、東京歯科大学を代表する学生達が、学生会の齋藤 馨さんをリーダーとして、真夏のソウルに迎えられました。同じ歯科医師を目指す同世代の韓国の仲間との5日間の交流。延世大学での歓迎会や講演、施設の見学、そして学生交流会議とつづくさまざまなプログラム。英語を使ってお互いの考え方を伝えあうというコミュニケーションの中で、若い彼らはどのような体験をし、そしてどんな気づきがあったのでしょうか。一方、日本では、今夏、第37回アジア太平洋歯科学学生会議(APDSA)が開催され、本学からも国際医療研究会のメンバーの池田麻乃、金子かおり、本田健太郎さんが参加したとのこと。アジア太平洋地域の12カ国の450人の歯科学学生達と学術プログラムや社会プログラムを通し、宗教や習慣の違いを超え、寝食を共にしました。「大学や国の枠を超えて信頼関係が深まり、自分の将来像がおぼろげながらも見えてきた…」との言葉に、学生達の将来に明るい光が差す思いがします。

ノーベル化学賞を受賞された根岸英一教授のインタビューに「日本はすごく居心地がいい社会なんでしょうけれど、若者よ、海外に出よ、と言いたい。たとえ海外で成功しなくとも、一定期間、日本を外側からみるという体験は、何にもまして重要なはず。」というひと言がありました。延世大学との長い年月にわたる親密な交流や歯科学学生会議を通して、国や習慣、宗教までも超えた信頼関係を築くことができたという体験こそが、東京歯科大学の学生達にとって世界に目を向ける1つの大きなステップとなっていくでしょう。

記録的な夏の暑さのなか、第42回歯学体夏期部門が開催されました。今年の主管は徳島大学歯学部で、徳島を中心に大阪や広島、岡山、愛知、千葉など、さまざまな土地で、東京歯科大の400名近い学生達が、熱い戦いを繰りひろげました。クラブの記事の一つひとつに、暑い夏の日の感動と、支えてくれた仲間や先輩、先生達への感謝の気持ちがあふれています。男女総合2連覇を果たしたバドミントン部、総合優勝で昨年の雪辱を果たした陸上競技部、圧倒的な強さで来年の6連覇を狙う池田朋子、大山陽子さんペアを擁する軟式庭球部、主力選手の怪我を乗り越えて必死で戦い準優勝を勝ち取ったバレーボール部、ひとりぼっちで初心者の新入部員だった鬼谷 薫君が19連覇を絶たれた思いを胸に主将となり、優勝にあと一歩と迫った水泳部、そして、歯学体副評議員として、デンタルの運営にあたった金 智英君・・・、短い行間から学生達の情熱と、大きな声援が聞こえてきます。

第5回東京歯科大学公開講演会では、近隣の自治会から200名を超える参加者が集まりました。アンケートに見る評判も上々で、地域への情報発信とそこに住む人達とのコミュニケーションの大切さをあらためて感じています。

（広報・公開講座部長：橋本貞充）



「夏の日のグラウンド」